

日本古代史ネットワーク
古代を解明する会 第19回 基本レポート
『長江文明』

2022年7月9日
丸地三郎
再録用改定版(2022/8/5)

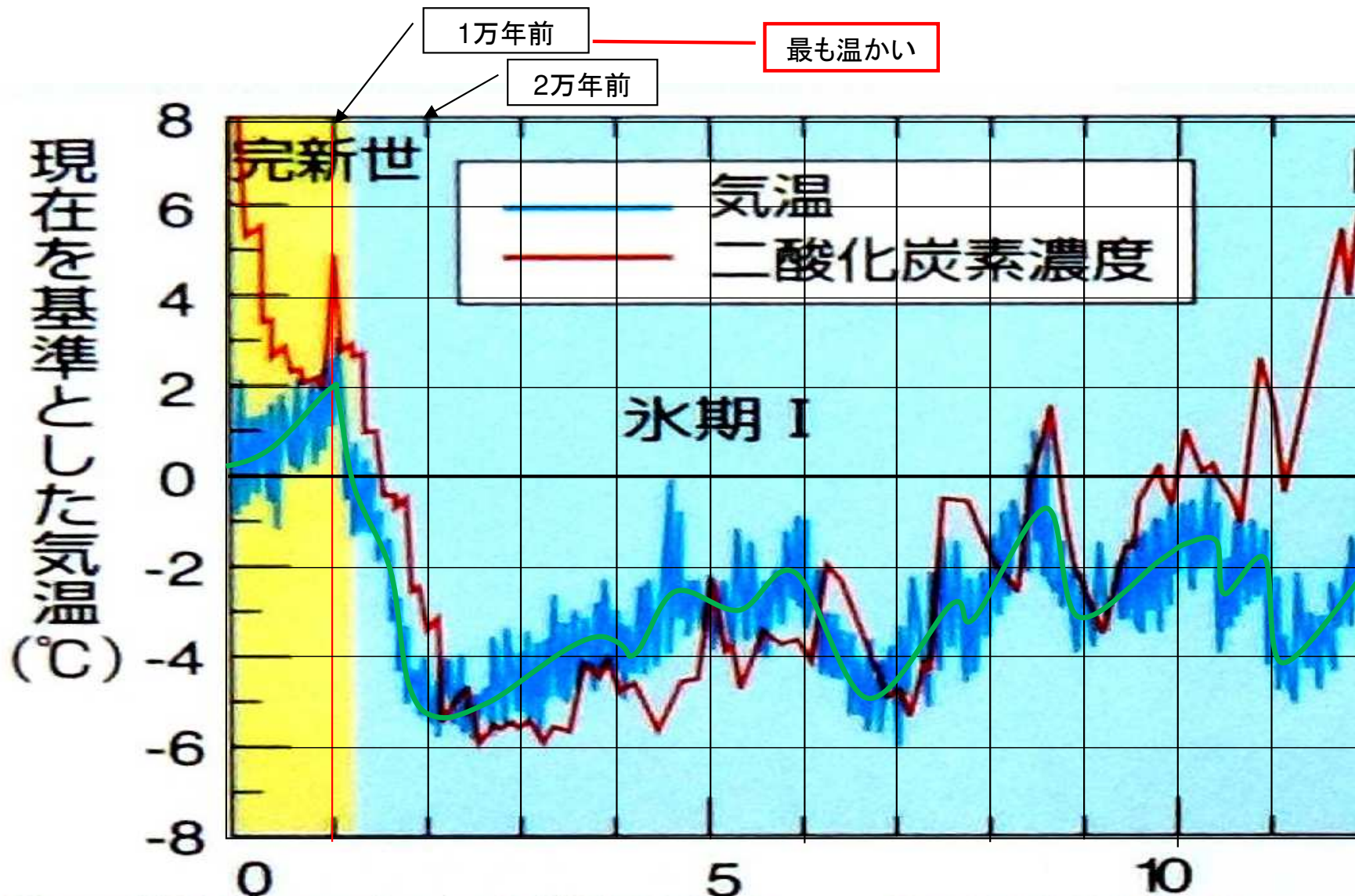
年代	遼河流域	長江上流域	長江中流域	長江下流域	黃河流域上流	黃河流域中流	黃河流域下流	
B.C.14000			玉蟾岩文化					
B.C.12000			仙人洞/呂桶環遺跡					
B.C.8000			八十垵遺跡					
B.C.7500			彭頭山文化					
B.C.7000								
B.C.6500								
B.C.6400								
B.C.6300								
B.C.6200								
B.C.6100	興隆窪文化							
B.C.6000								
B.C.5900								
B.C.5800								
B.C.5700								
B.C.5600								
B.C.5500								
B.C.5400	新樂文化							
B.C.5300								
B.C.5200								
B.C.5100								
B.C.5000								
B.C.4900								
B.C.4800								
B.C.4700								
B.C.4600								
B.C.4500	趙宝溝文化							
B.C.4400								
B.C.4300								
B.C.4200								
B.C.4100								
B.C.4000								
B.C.3500								
B.C.3000	紅山文化							
B.C.2900								
B.C.2800								
B.C.2700								
B.C.2600								
B.C.2500								
B.C.2400								
B.C.2300								
B.C.2200								
B.C.2100								
B.C.2000	夏家店下層文化	喇家文明						
B.C.1900								
B.C.1800								
B.C.1700								
B.C.1600								
B.C.1500		卡約文化						
B.C.1400		三星堆文化						
B.C.1300								
B.C.1200								
B.C.1100	夏家店上層文化		寺洼文化					
B.C.1000								
B.C.900								
B.C.800								
B.C.700								
B.C.600								
B.C.500								
B.C.400								
B.C.300								
B.C.200								
年代	遼河流域	長江上流域	長江中流域	長江下流域	黃河流域上流	黃河流域中流	黃河流域下	

年代	長 江			黃 河			遼河流域	
	上流域	中流域	下流域	下流域	中流域	上流域		
B.C.14000		玉蟾岩文化						
B.C.12000		仙人洞/呂桶環						
B.C.8000		八十垵						
B.C.7500		彭頭山文化						
B.C.7000								
B.C.6500								
B.C.6400								
B.C.6300								
B.C.6200								
B.C.6100								
B.C.6000								
B.C.5900								
B.C.5800								
B.C.5700								
B.C.5600								
B.C.5500								
B.C.5400								
B.C.5300								
B.C.5200								
B.C.5100								
B.C.5000								
B.C.4900								
B.C.4800								
B.C.4700								
B.C.4600								
B.C.4500								
B.C.4400								
B.C.4300								
B.C.4200								
B.C.4100								
B.C.4000								
B.C.3500								
B.C.3000								
B.C.2900								
B.C.2800								
B.C.2700								
B.C.2600								
B.C.2500								
B.C.2400								
B.C.2300								
B.C.2200								
B.C.2100								
B.C.2000								
B.C.1900								
B.C.1800	喇家文明							
B.C.1700	卡約文化							
B.C.1600								
B.C.1500								
B.C.1400		三星堆文化						
B.C.1300								
B.C.1200								
B.C.1100	寺洼文化							
B.C.1000								
B.C.900								
B.C.800								
B.C.700								
B.C.600								
B.C.500								
B.C.400								
B.C.300								
B.C.200								
年代		上流域	中流域	下流域	下流域	中流域	上流域	遼河流域
		長 江			黃 河			

長江文明を理解するために

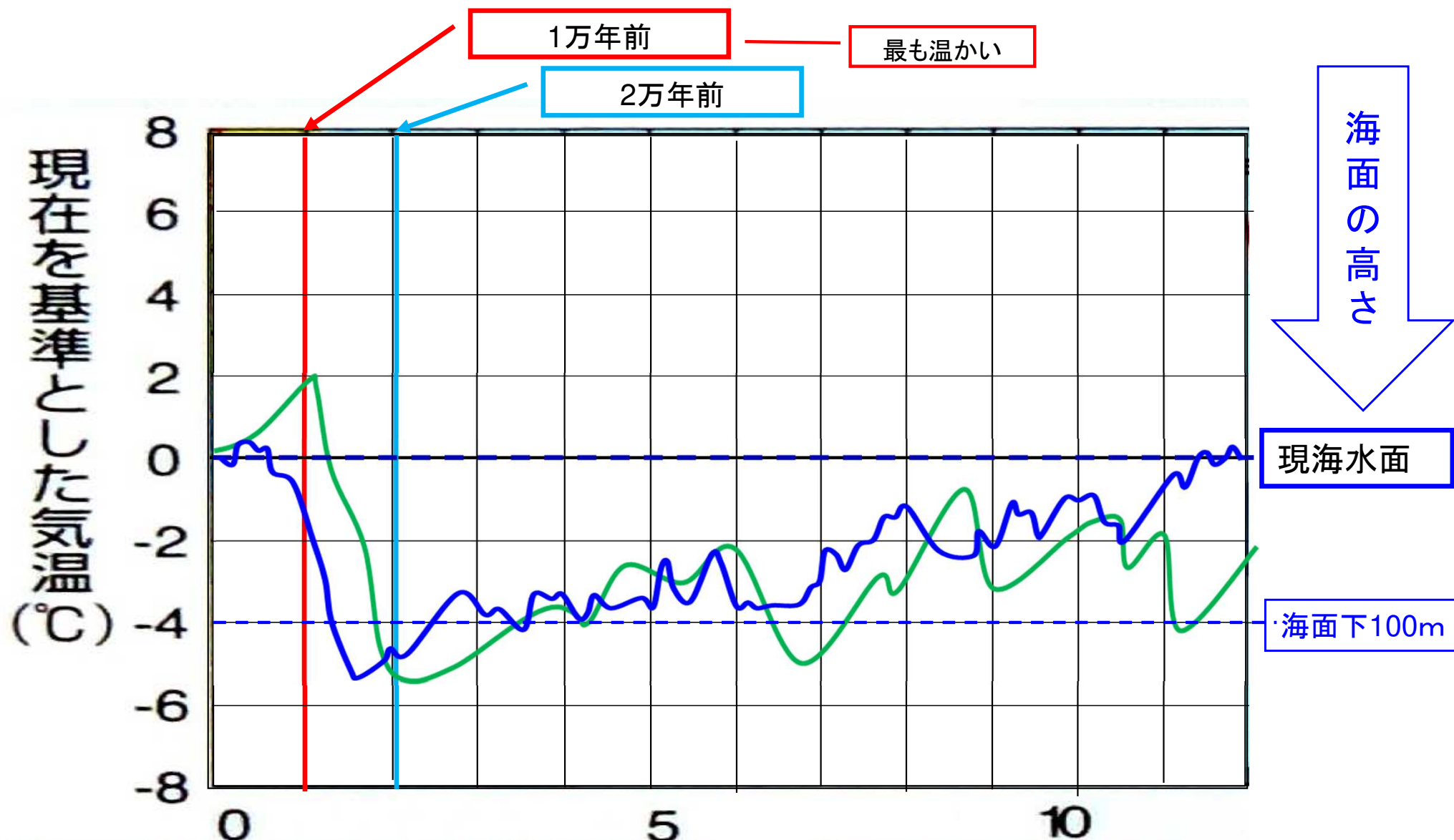
- 長江文明は、
 - 1万6千年前の玉蟾岩(ぎょくせんがん)文化の稲のもみ殻から始まり、
 - 夏王朝が起き、殷周秦漢に入る時代まで
の期間のことになる。
- その当時は、
 - 気候も、
 - 海面高さも今とは異なり、
 - 河川の流れも変わっていた筈
 - 人・言語も現在の中国とは異なっているかも知れない。
- 先ずは、気候・海面高さ・河川の変化から見て行くことにする。

地球規模の気温の推移



第一期ドームふじ計画で 国立極地研
掘削した2503mの氷床コア解析 研究所提供

海水準と気温の推移には、ギャップがある



第一期ドームふし計画で 国立極地研
掘削した2503mの氷床コア解析 研究所提供

実際の縄文海進：海水準の最高は、見直され、2.5m程度で、ピークは約7000年前

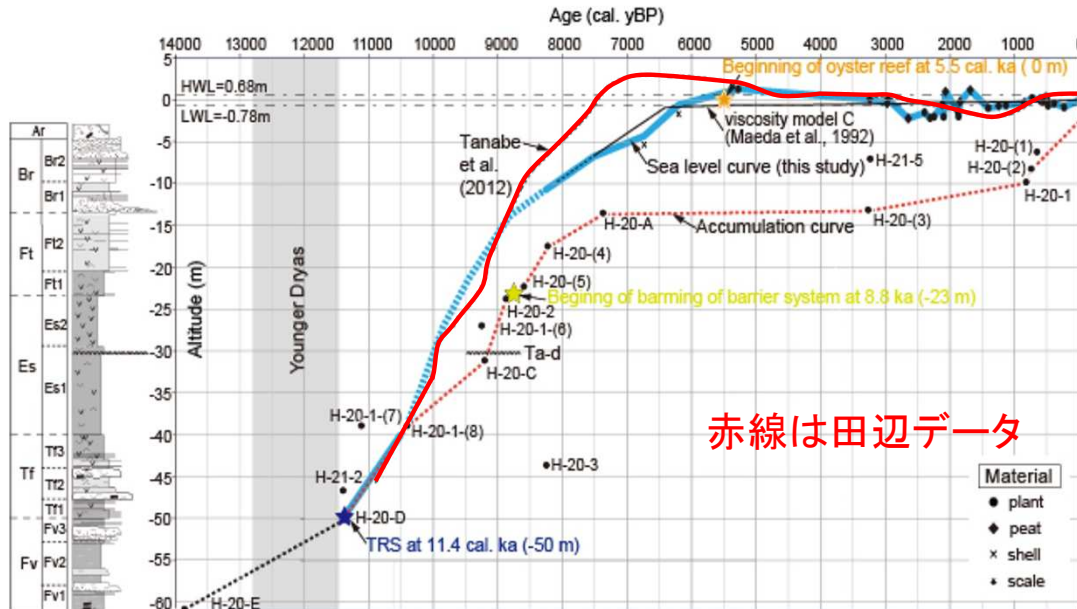


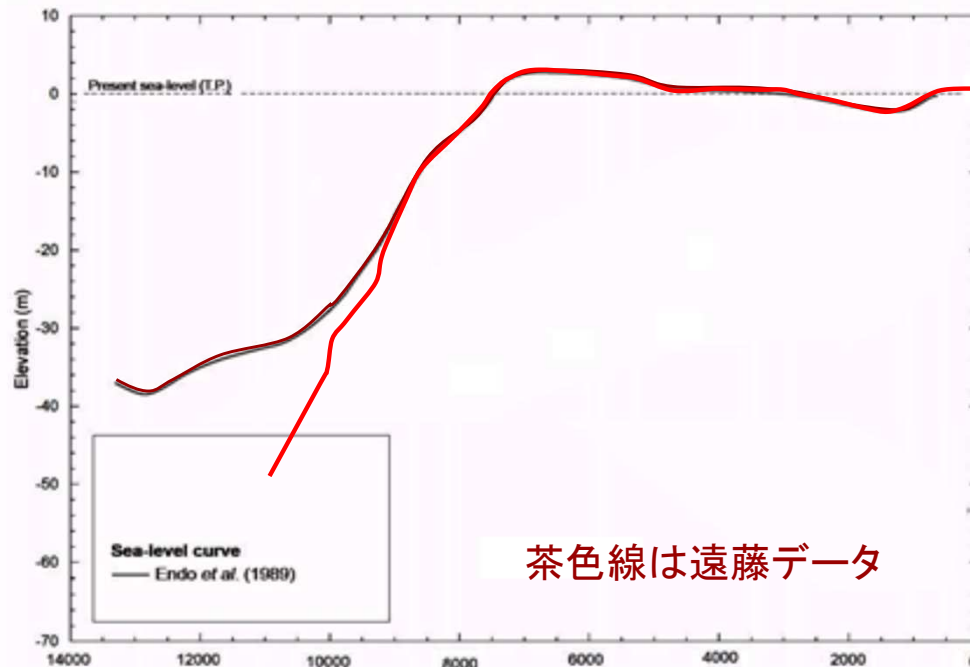
図5. 岸沿岸低地の後氷期バリアーシステムにおける堆積速度曲線と海面変動曲線

- ・ 遠藤(1989年発表)と田辺(2012年)発表論文のデータが、近年信頼されている。
- ・ 複数地点のデータを集積し、地殻の上昇・下降、土砂の堆積等を詳細に検討し、海水準を見直した。
- ・ 従来の5-6m以上との概念は間違っていた。

赤線は田辺データ

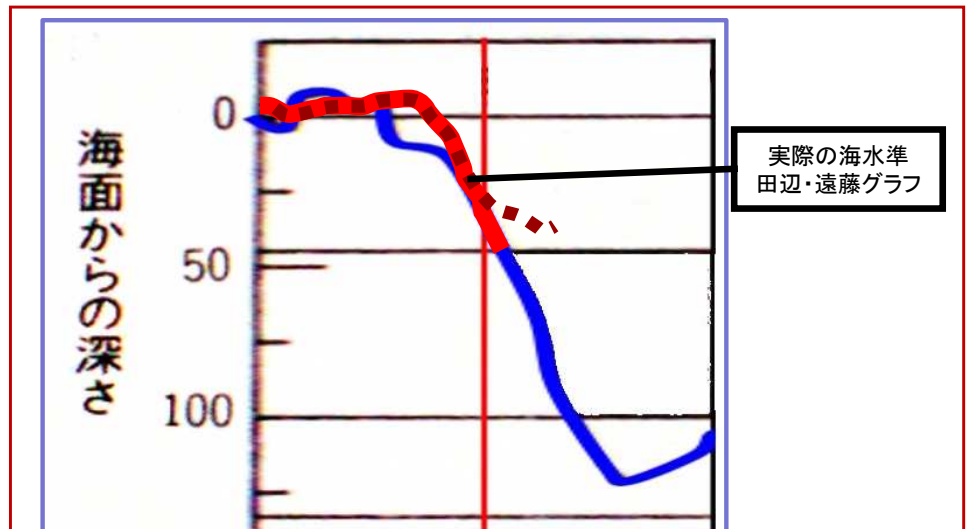
←

北海道東部厚岸沿岸低地の完新世バリアーシステムと海水準変動の復元
重野 聖之(茨城大学大学院理工学研究科) 平成25年度



茶色線は遠藤データ

←東京低地と中川低地における沖積層のシーケンス層序と古地理
田辺 晋1・中西利典2・石原与四郎3・宮地良典1・中島 礼1, 2014
(左右反転の加工をしています)

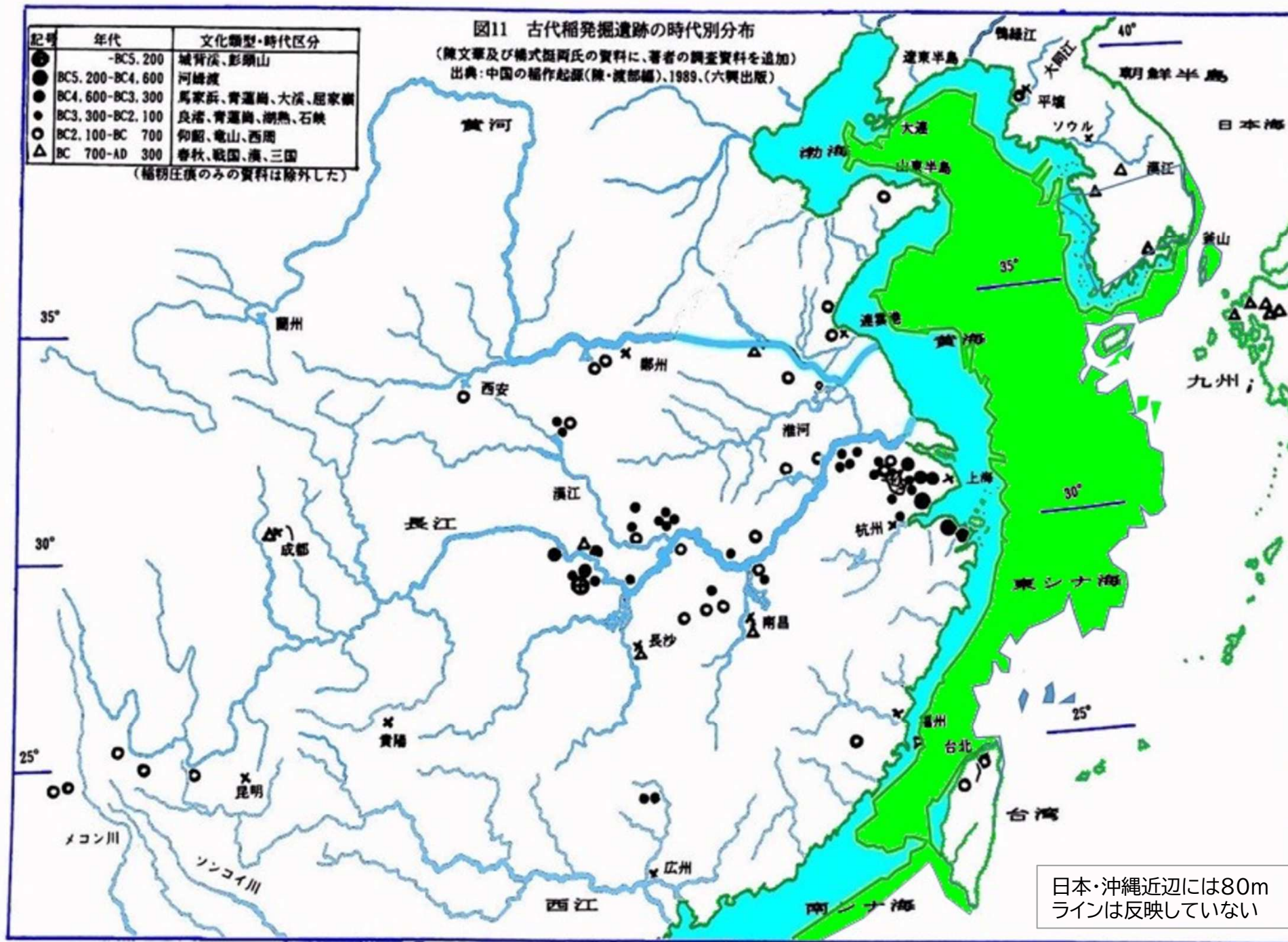


海水総量から算出したグラフとは、違いが見られる。

海面高さ =

1万4千年前:約80m下

1万年前:30m下

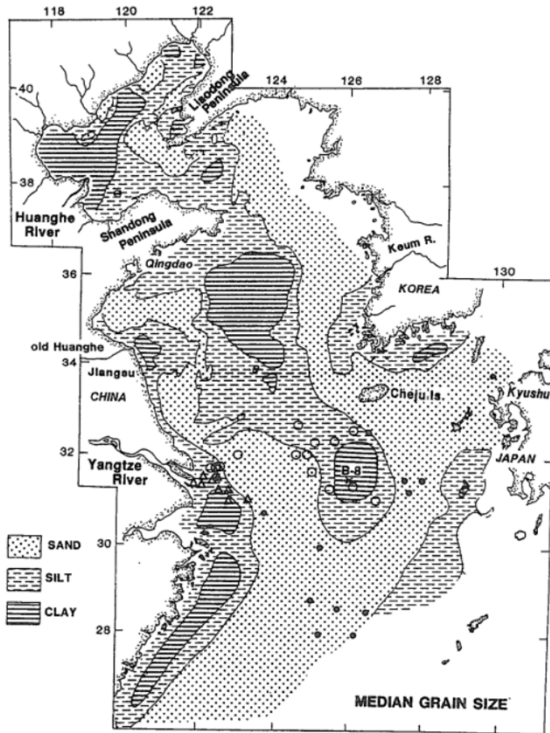


黄河の河道変遷

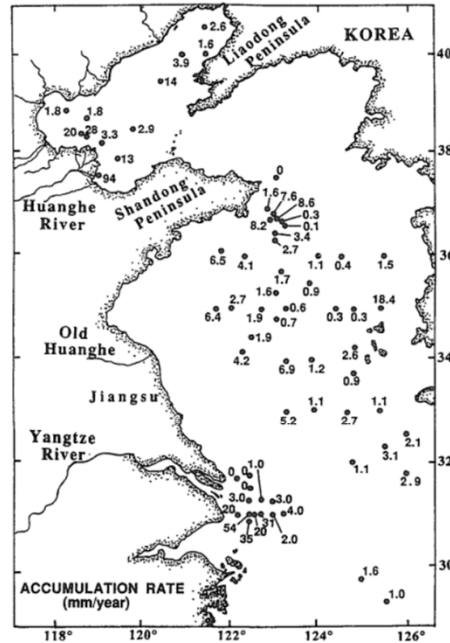
• 「東シナ海陸棚堆積物に記録された黄河の河道変遷と人為的影響」

- 地質ニュース476号8-16頁 1994年4月
- 著者：斎藤文紀・池原研・片山肇・松本英二・楊作升

• 東シナ海に堆積した土砂を採取・解析することにより、黄河の河道変遷を確認した論文。



第3図 東シナ海の底質図。中央粒径値による区分。
斎藤・楊(1993)による。●印は黄海から東シナ海において採取した柱状試料のうち1m以内の深度で1万年以上の年代値が得られている地点。○と△は、方解石の含有の有無から識別された黄河系(○)と揚子江系(△)の堆積物の区別(Milliman et al., 1985aによる)。



第4図 渤海、黄海、東シナ海の堆積速度図。
DeMaster et al. (1985), 杜ほか(1990), 李ほか(1991), Alexander et al. (1991)から作成。堆積速度は mm/yr. 斎藤・楊(1994)より。

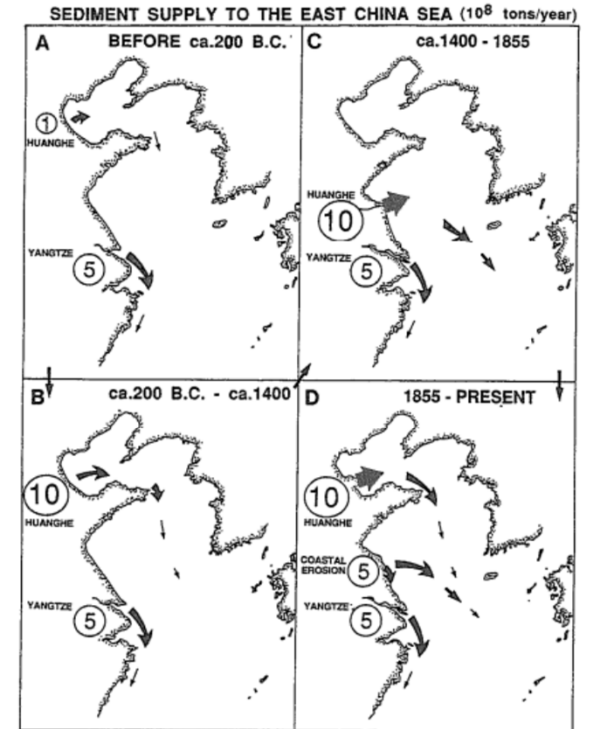
第2表 黄河と旧黄河河口域江蘇地区から供給される堆積物の堆積域と堆積量。

黄河(利律における堆積物運搬量:年間10億トン)

1. 陸域部分(利律から河口まで)	2-3億トン
2. 沿岸域(海岸線から30 km 以内)	4-5億トン
3. 沖合	3億トン
渤海	1.3億トン
黄海	1.7億トン
東シナ海	0.1億トン以下

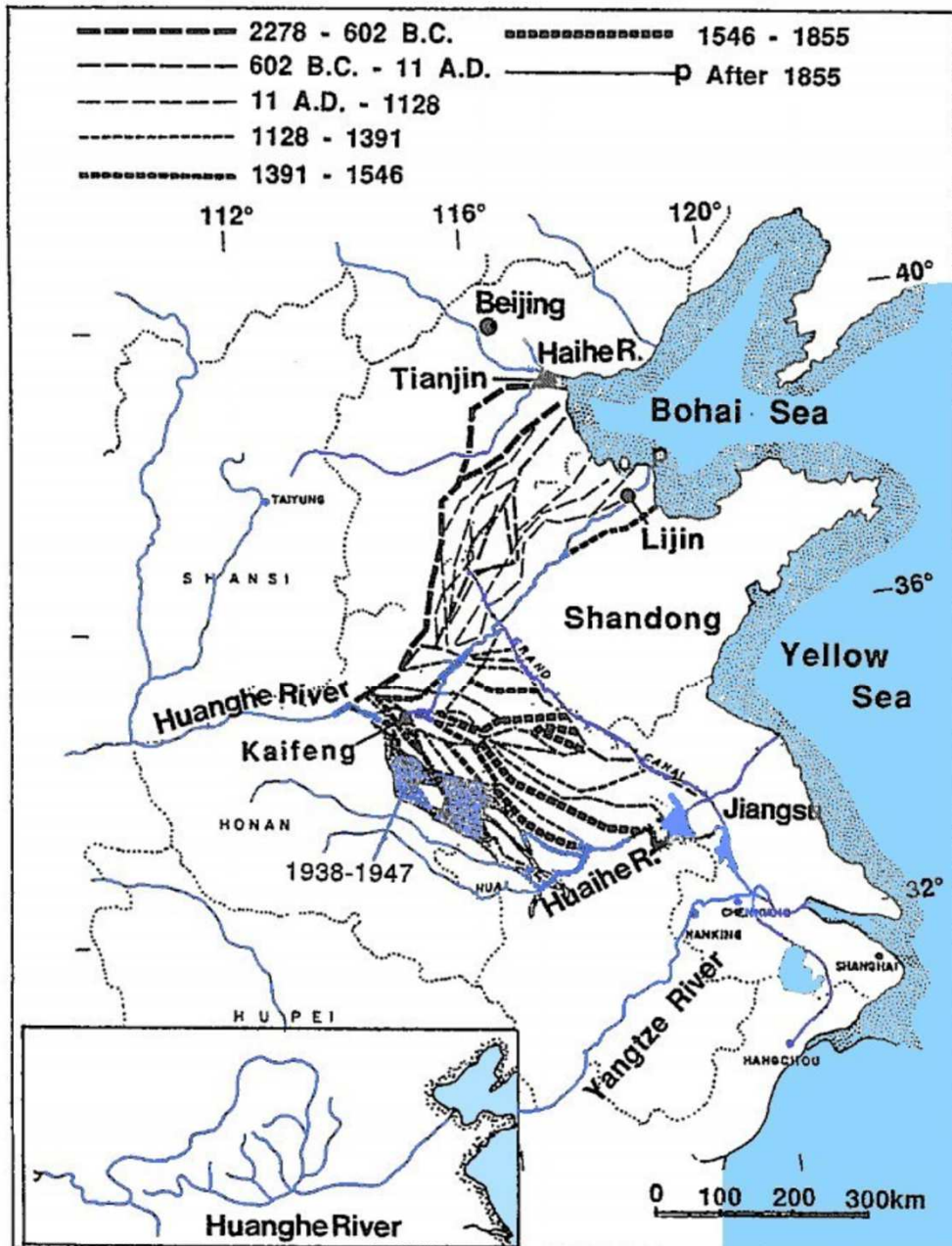
江蘇地区の沿岸侵食(年間5億トン)

1. 沿岸域	2.2-4.0億トン
江蘇地区沿岸域	1.8-3.6億トン
揚子江河口域	0.37億トン
2. 沖合	1.8億トン+x
黄海中部	1.3億トン
東シナ海(陸棚域)	0.5億トン
東シナ海(斜面/沖繩トラフ)	?



第5図 東シナ海への堆積物供給の変遷図。矢印の大きさは運搬量の相対的な量を示す。○の中の数字は堆積物の供給量を示す。単位は億トン/年。

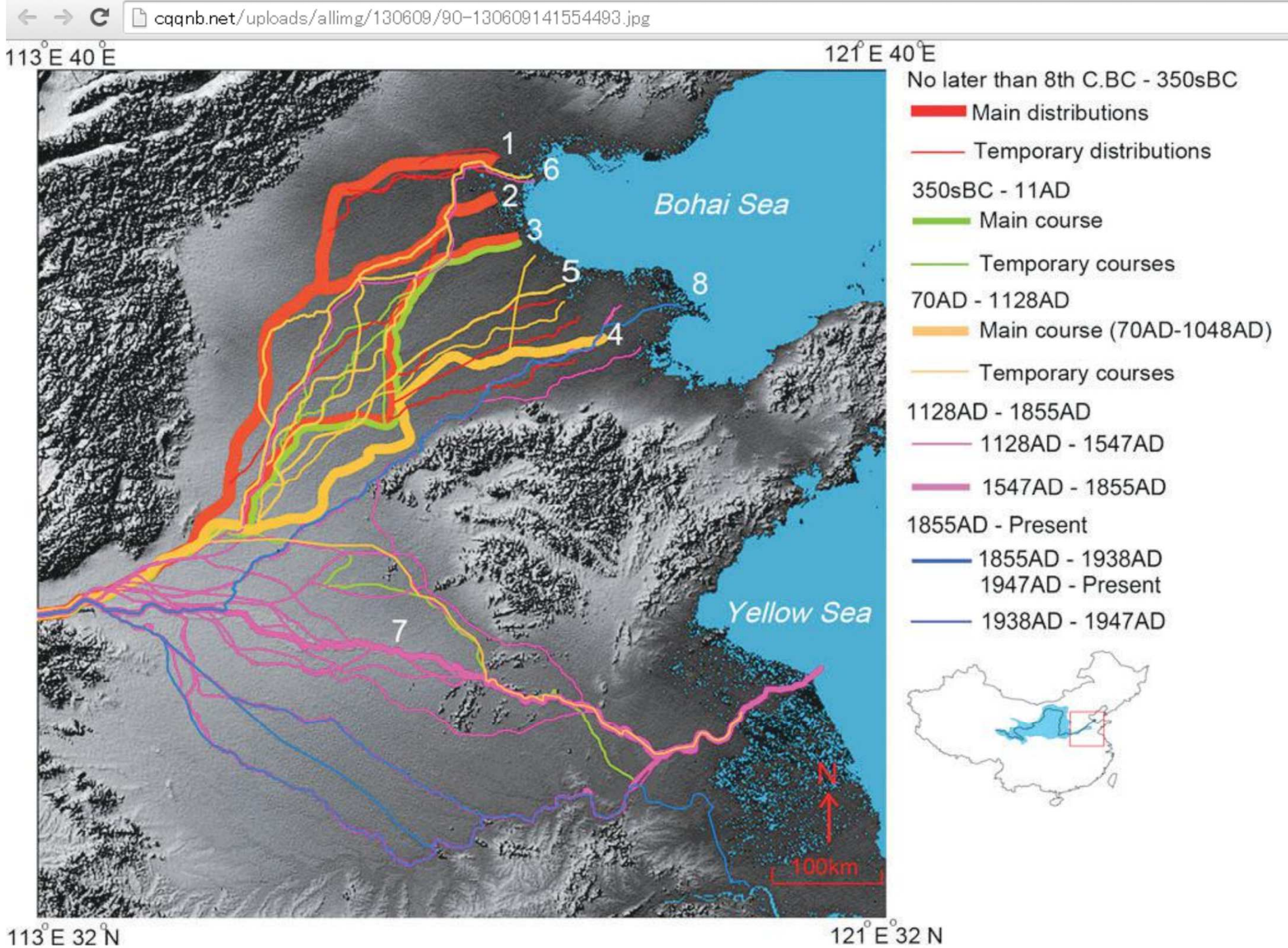
黄河の河道変遷



- 「東シナ海陸棚堆積物に記録された黄河の河道変遷と人為的影響」
 - 地質ニュース476号8-16頁 1994年4月
 - 著者：斎藤文紀・池原研・片山肇・松本英二・楊作升
- 東シナ海に堆積した土砂を採取・解析することにより、黄河の河道変遷を確認した論文。
- BC2278年～BC602年には山東半島北側：渤海に注ぐ
- その後、河道は氾濫原を移動するが、渤海に注いだ。
- 1128年～1546年は、河道が確定せず、黄海と渤海に注ぐ
- 1546年～1855年 黄海へ
- 1855年以降は再び、渤海に注ぐ河道に戻された。
- コメント
 - 夏王朝の禹が黄河の河道を移動させ、渤海に注がせたと言われるBC2278年以降、約3400年間は、淮河流域の氾濫が収まったことが、確認されたことになる。
 - その後の、淮河流域への流入とその流路の定まらないことは、禹以前の洪水対策が難しかったことが窺われる。

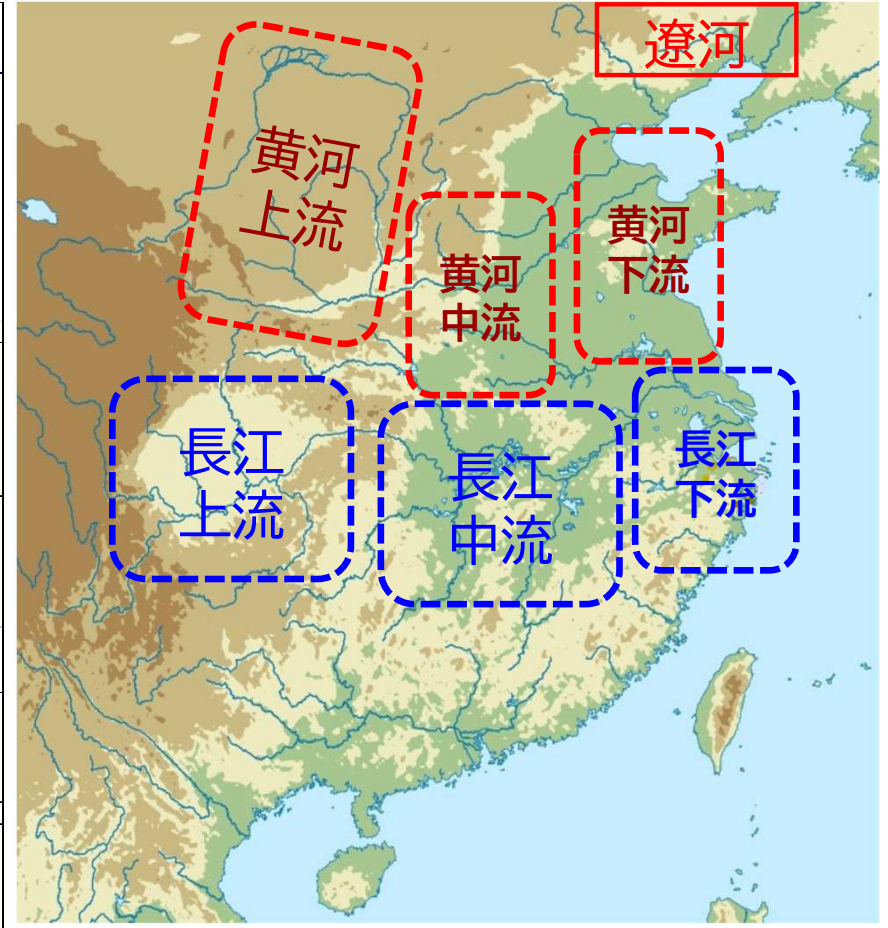
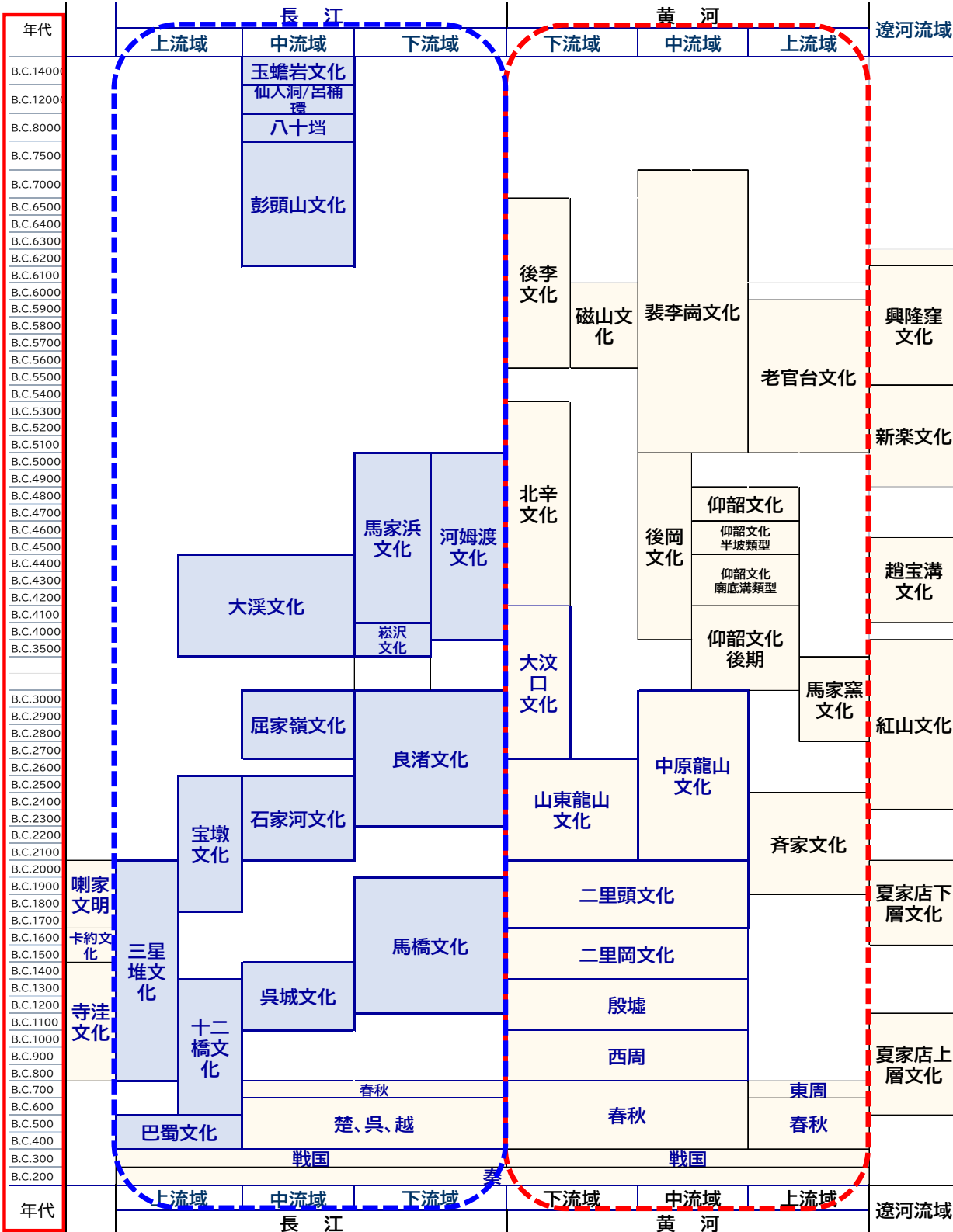
第1図 BC2278年から現在までの黄河の河道変遷図.
Shen (1979), 成(1991), ほかをもとに作成.

黄河の河道変遷 カラーで見易い



留意したいこと

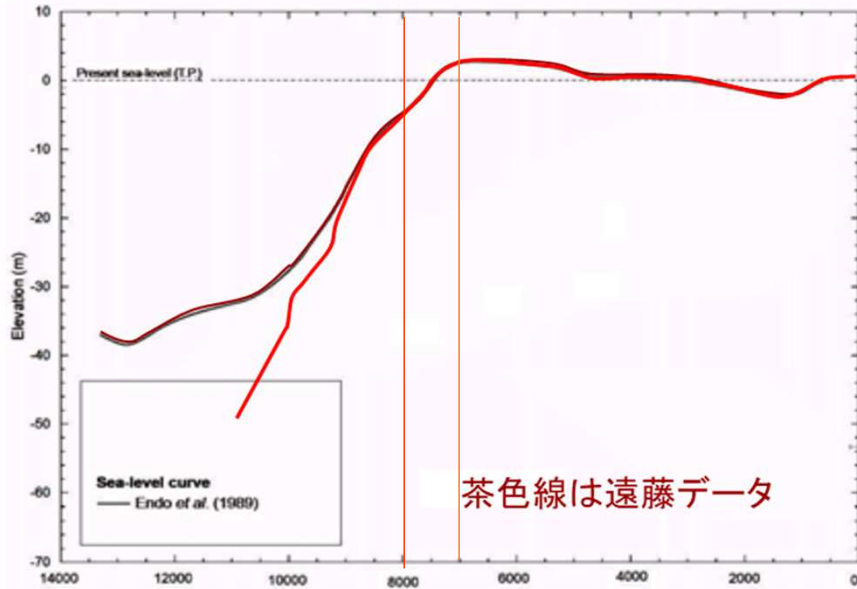
- 長江文明を発展させた稲作は、水に大きく影響される。
 - 1万年前から8千年前の稲作発展時期には、中国の東側には、海では無く、広大な平原が広がっていた。
 - その稲作に適した広大な平原は、縄文海進(世界共通の現象)により、徐々に狭められ、水田稲作を行っていたであろう人々は、適地を求めて、西へ、西へと移動せざるを得なかった。
 - 縄文海進の頃は、気温は下降していたが、現在よりも暖かく、稲作には適していた。
 - 淮河流域までは、稲作が可能な気温であったと考えられる。
- 黄河は河道を変えている。
 - 伝説と云われるが、夏王朝の禹が黄河の河道を北に移し、その後に洪水が減少したと言われるが、その後3400年間、変動はあっても、夏・殷などの中心地域であった淮河流域には、黄河は戻らず、安定していたことが、科学的にも認められている。
 - 紀元前2278年の河道変更:淮河流域の洪水減少が、文明の発展に影響を与えて居ないだろうか？ 留意したい。
- 夏王朝成立が、紀元前2070年と云われるが、それ以前の戦乱とその後の安定は、やはり、文明の発展に影響を与えて居ないだろうか？



中国文明

- 長江文明と黄河文明
- 黄河上流と長江上流は、離れている。
- 黄河下流と長江下流は、近い。

画期： 縄文海進・ 夏王朝成立



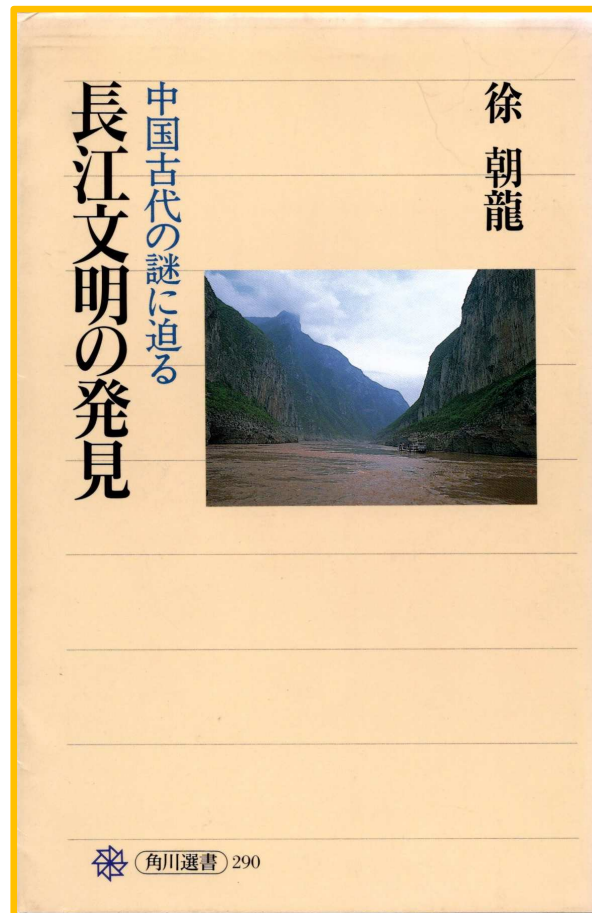
年代	長江			黄河			遼河流域
	上流域	中流域	下流域	下流域	中流域	上流域	
B.C.14000		玉蟾岩文化					
B.C.12000		仙人洞/呂橋					
B.C.8000		八十垵					
B.C.7500							
B.C.7000		彭頭山文化					
B.C.6500							
B.C.6400							
B.C.6300							
B.C.6200							
B.C.6100							
B.C.6000							
B.C.5900							
B.C.5800							
B.C.5700							
B.C.5600							
B.C.5500							
B.C.5400							
B.C.5300							
B.C.5200							
B.C.5100							
B.C.5000							
B.C.4900							
B.C.4800							
B.C.4700							
B.C.4600							
B.C.4500							
B.C.4400							
B.C.4300							
B.C.4200							
B.C.4100							
B.C.4000							
B.C.3500							
B.C.3000							
B.C.2900							
B.C.2800							
B.C.2700							
B.C.2600							
B.C.2500							
B.C.2400							
B.C.2300							
B.C.2200							
B.C.2100							
B.C.2000							
B.C.1900	喇家文明						
B.C.1800							
B.C.1700							
B.C.1600	卡約文化						
B.C.1500							
B.C.1400		三星堆文化					
B.C.1300							
B.C.1200							
B.C.1100	寺洼文化						
B.C.1000							
B.C.900							
B.C.800							
B.C.700							
B.C.600							
B.C.500							
B.C.400							
B.C.300							
B.C.200							
年代	上流域	中流域	下流域	下流域	中流域	上流域	遼河流域
		長江			黄河		

画期：夏王朝成立



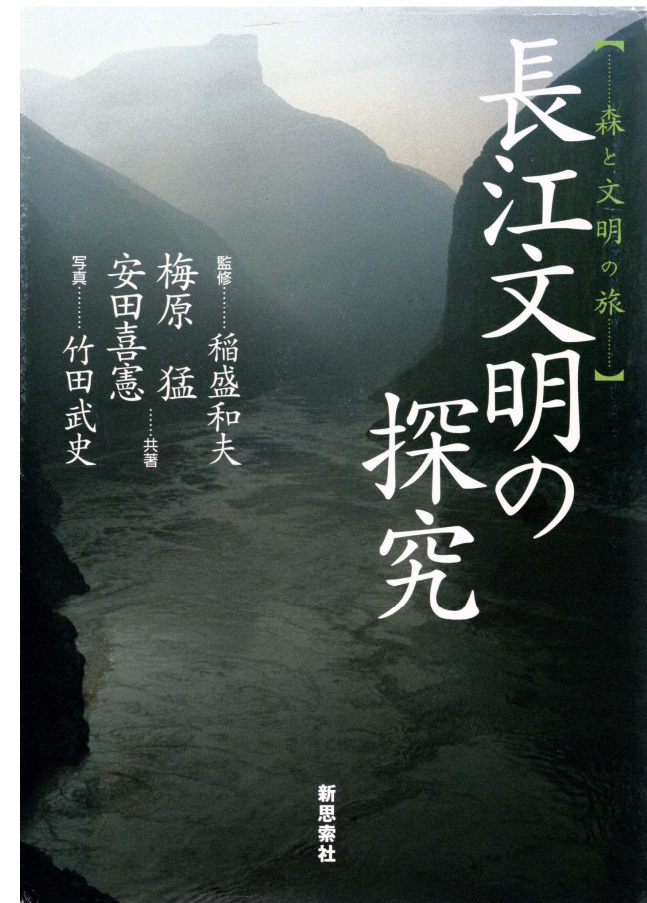
長江文明の画像とイメージ

- 徐朝龍著の「長江文明の発見」及び長江文明の発掘に携わった安田喜憲著の「長江文明の探究」の写真などを借用
 - 長江文明を生み出した地域の景色などと発掘物により
 - 長江文明のイメージを思いだしてください。



写真

P15～P30までの図・写真は徐朝龍氏の著書より借用



写真

P15～P30までの図・写真は梅原・安田両氏の著書より借用

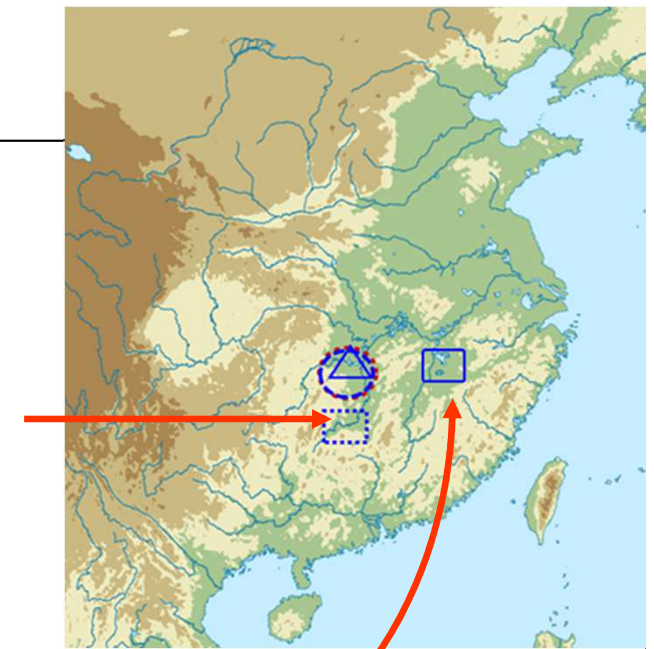
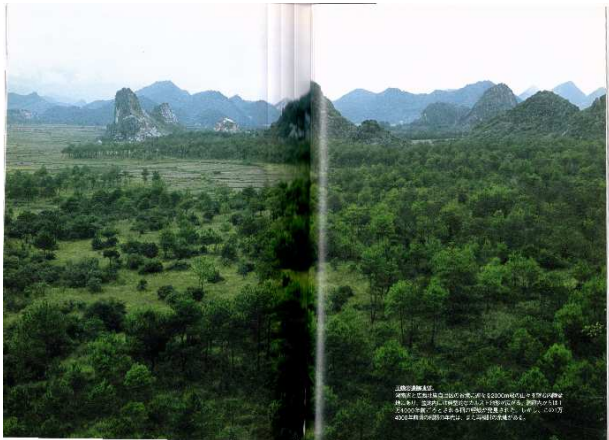
長江文明の遺跡



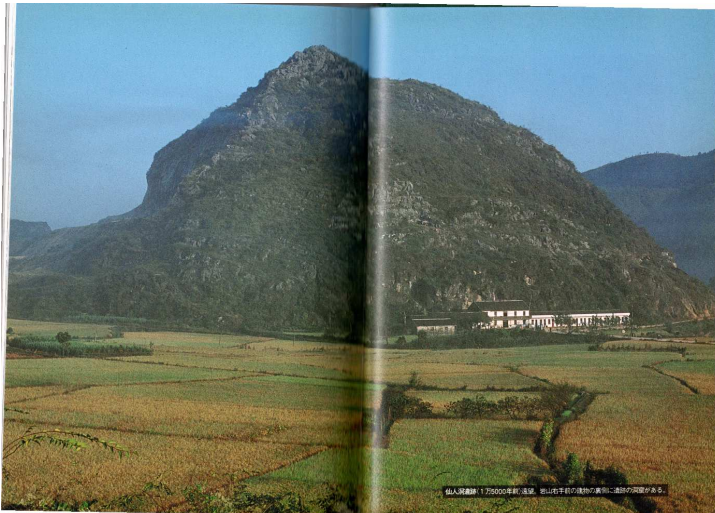
稲作と土器の起源に関する遺跡分布

長江文明の開始地域 中流域

- 玉蟾岩(ぎょくせんがん)文化 (16,000~14,000年前)



- 仙人洞/呂桶環(せんになんどう/ちょうとうかん)遺跡 (14,000年前頃)



- 八十垱(だん)遺跡 (10,000年前ごろ)



長江文明の開始地域 中流域

- 彭頭山文化 (9500年前～8100年前頃)



長江文明の発展 下流域

河姆渡文化 (7,000年前頃～5,400年前頃)

復元された河姆渡遺跡。

上：7000年前の高床式住居の復元、
右：5600年前の井戸の復元、左頁上：1973-74年に発掘、復元された集落の出土状況、左頁下：当時の生活風景を想像した復元。

初期稲作農耕遺跡として有名な河姆渡遺跡は、長江河口付近のデルタ地帯に位置する。ここからは、炭化米や土器をはじめ、写真で見ると当時の住居、井戸、稲束なども出土している。

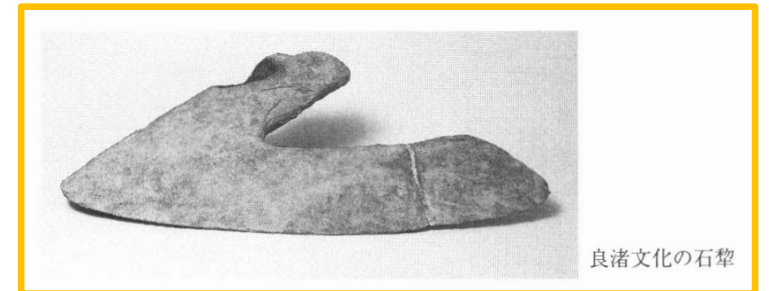
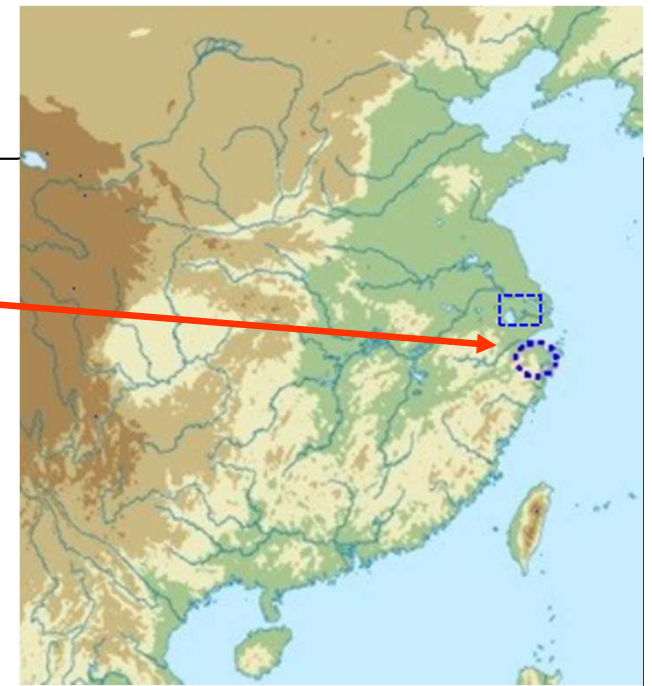


河姆渡文化の骨製道具
(「中国河姆渡文化」より)



長江文明の発展 下流域

河姆渡文化 (7,000年前頃～5,400年前頃)

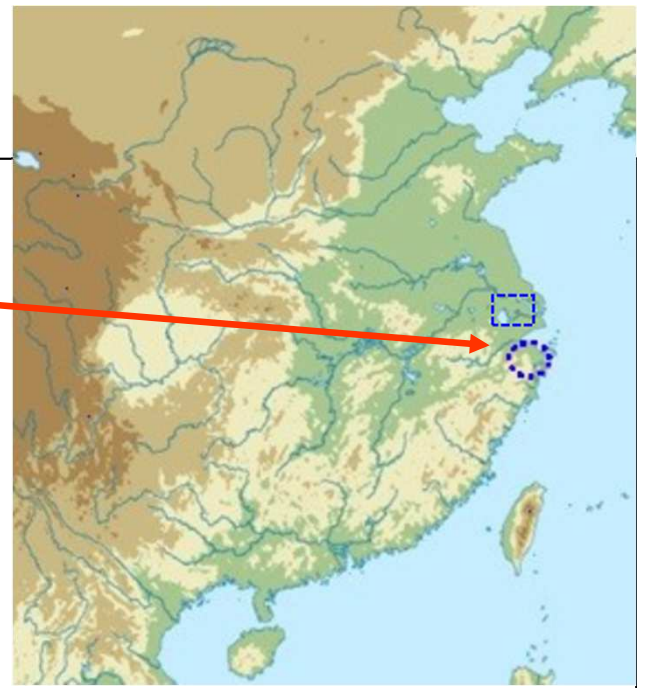


長江文明の発展 下流域

河姆渡文化 (7,000年前頃～5,400年前頃)

魚を蛋白源にした長江文明

安田 もともと長江流域の人々の蛋白源は魚なんです。河姆渡遺跡の時代にゾウやサイやトラを食べていましたが、そのあとの彭頭山遺跡とか、あるいは城頭山遺跡では、もちろんそういうサイやゾウも初期の段階ではいるけれども、食べつくしてしまう。しかし、けしてヒツジやヤギなどの家畜は出てこないのです。馬も出てきません。



長江文明の発展 中流域

- 大溪文化 (6,400年前頃～5,300年前頃)
- 城頭山遺跡:紀元前4300年頃の城壁(最古の城壁都市)

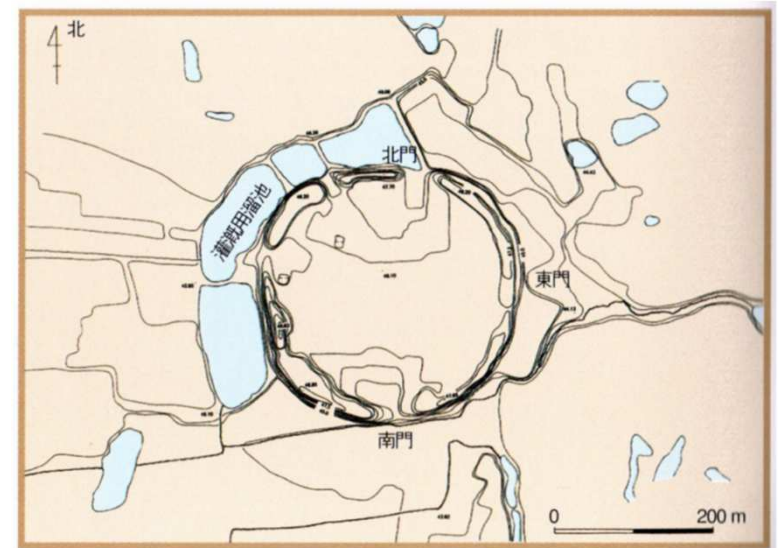
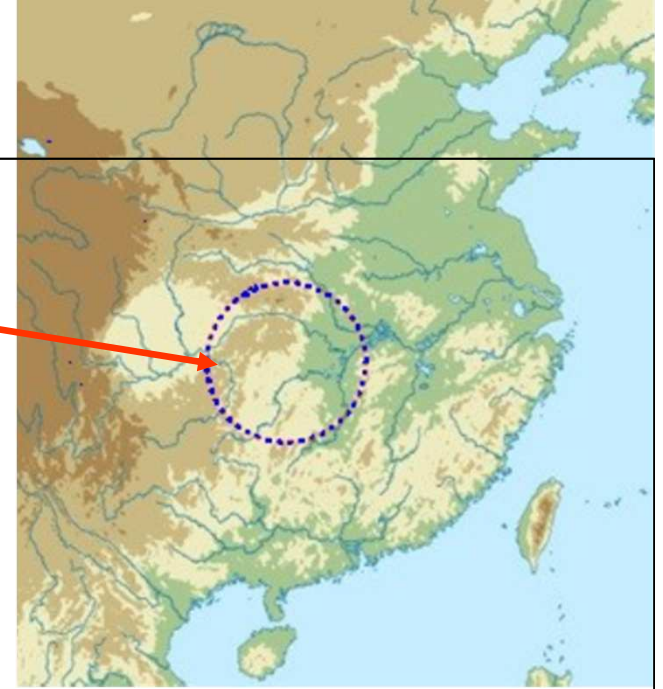


図6 湖南省城頭山遺跡の平面図 (原図・安田喜憲)

長江文明の発展 中流域

城頭山遺跡:紀元前4300年頃の城壁



城頭山遺跡から出土した土器類、下段右端は石斧（屈家嶺文化時代）。大きさは、小さなもので高さ約20cm、大きなものでは約60cmである。



大溪文化の彩陶
(高さ約13cm)



屈家嶺文化の黒陶
(高さ約13cm)

長江中流域の遺跡から出土した土器。

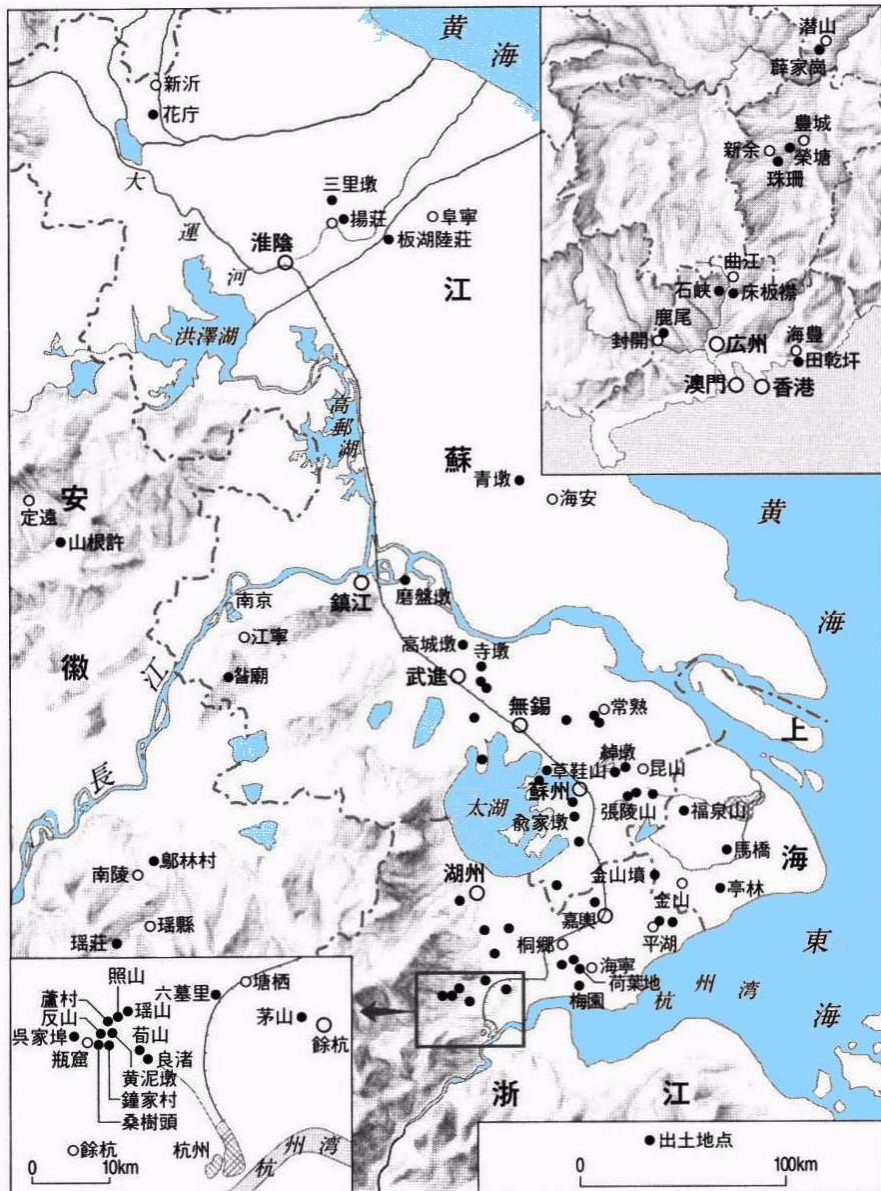


城頭山遺跡から発見された甕棺群

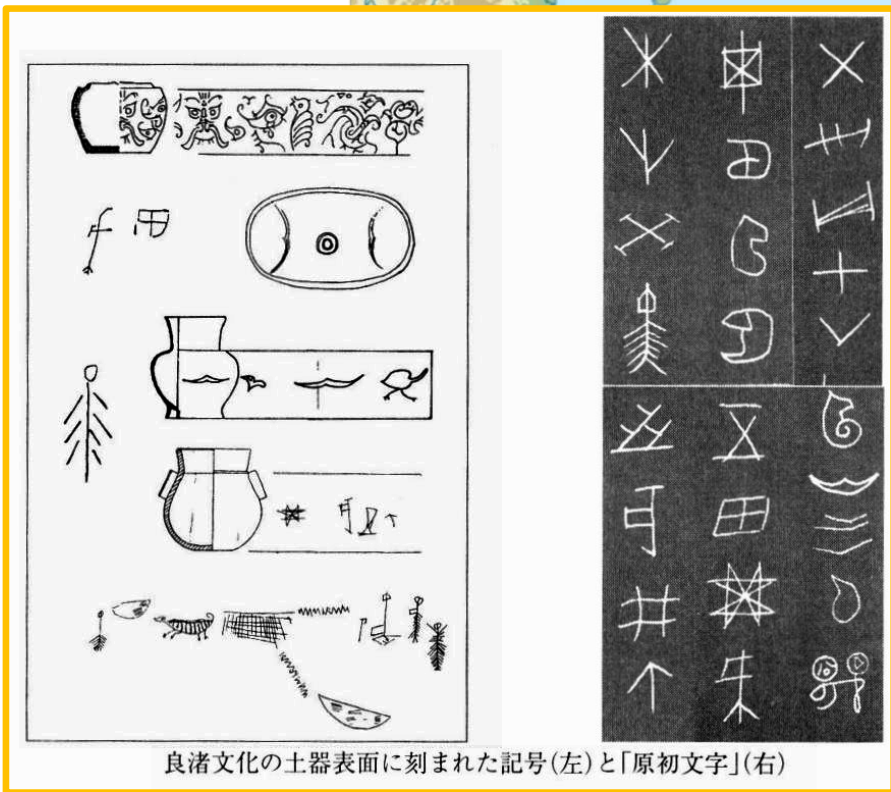


長江文明の発展 下流域

- 良渚(りょうしよ)文化 南蛮:越族 (5,200年前~4,200年前)



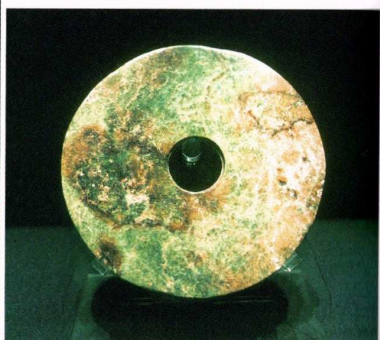
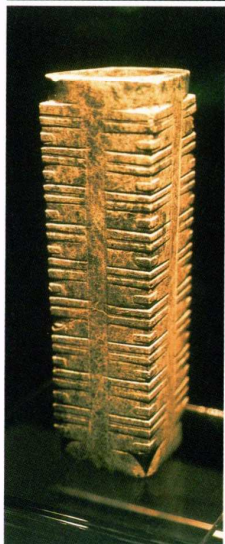
良渚文明の遺跡分布図(「良渚文化玉器」より)



良渚文化の土器表面に刻まれた記号(左)と「原初文字」(右)

長江文明の発展 下流域

- 良渚(りょうしよ)文化 南蛮:越族 (5,200年前~4,200年前)



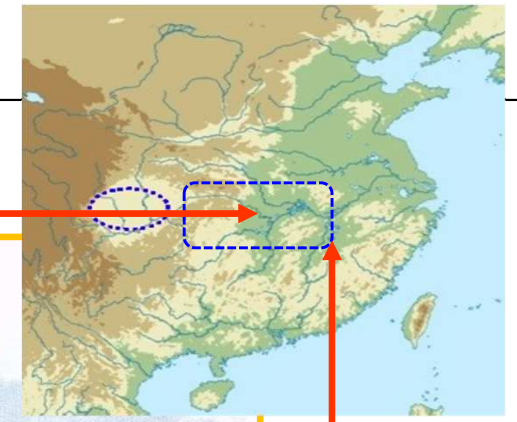
良渚遺跡群から出土した玉器と陶器（上海博物館蔵）。
 左頁の上と左は玉琮で、それぞれ高さ6cm、17cm、下右の円形は玉璧で直径約20cm。
 右頁の下左は玉の首飾りで長さ76cm、下右は黒陶で高さ25cmである。玉(器)とは、たとえば数センチほどの小さなひすいのような半透明の美しい石に、精緻なさまざまな細工、彫刻をこらしたものである。



おびただしい数の玉器が出土した良渚遺跡群の瑶山遺跡。

呉城文化

(3,400年前～3,000年前)



洞庭湖一帯を支配した謎の王国



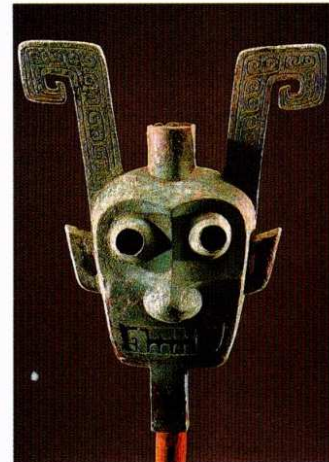
風光明媚な洞庭湖畔 どうていこはん

鄱陽湖畔の青銅王国



豊穡な鄱陽湖畔

奇妙な青銅仮面
(「中国文物精華展 1992年」より)



青銅製の虎



猪尊

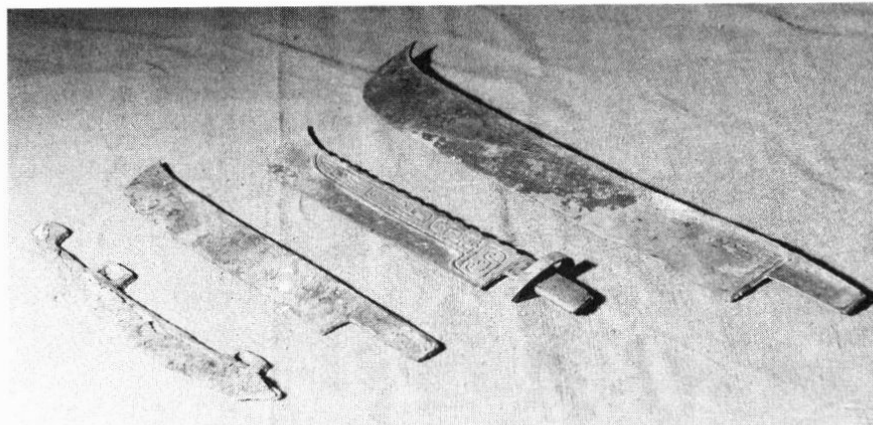


どうてつしょくじんゆう
饗養食人首 (京都泉屋博古館所蔵)

長江文明の発展 中流域

呉城文化

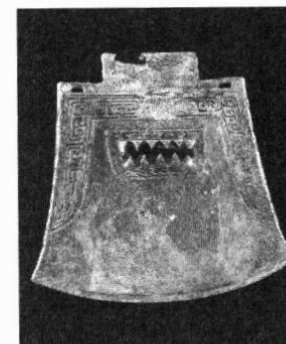
(3400年前～3000年前)



青銅道具類

一	ㄟ	∩
フ	丨	△
フ	二	X.X
XX X	↓	テ
フ	フ	↓
X	フ	フ
↑	フ	フ
M	フ	フ
+ X	フ	フ
フ	フ	フ
フ	フ	フ
フ	フ	フ
フ	フ	フ
フ	フ	フ
フ	フ	フ
フ	フ	フ

呉城文化の土器に刻まれた記号(文字)



王権の象徴である青銅鉞



造形がユニークな青銅卣

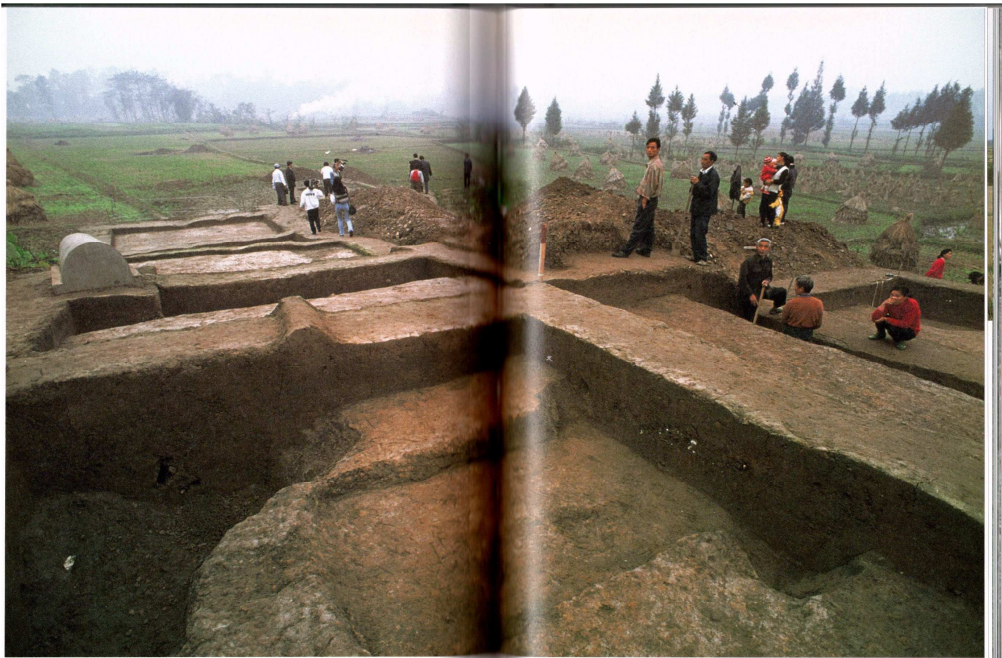
長江文明の発展 上流域

- 宝墩(ほうとん)文化 長江上流 (4,500年前~3,750年前)



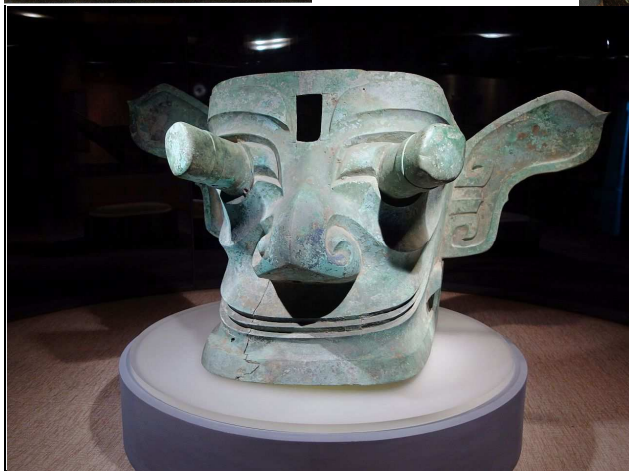
図2 四川省龍馬古城土墩遺跡の発掘平面図 (原図・安田高孝)
 遺跡約0.7km、600m×1100mの長方形をしており、城壁は高さ7~8m、城壁の底辺部分は30m以上の幅をもつ。中央の土壇は40m×60mの正方形にちがいを形をしており、高さ6mの3段のピラミッド形をしている。なお、環濠は城壁の外側に20mの幅で存在していた。

- 龍馬古城



長江文明の発展 上流域

三星堆文化 長江上流域（4,000年前～2,850年前）



長江文明の発展 上流域

- 三星堆文化 長江上流域（4,000年前～2,850年前）



B64 三星堆1・2号坑出土、象牙



B63 三星堆1・2号墳出土、子安貝



雲南出土の貯貝器 →

- **黄河文明**：古代文明の一つ。黄河流域の文明。現在は中国文明に包含させる。
 - 紀元前5000年頃(7000年前)から、黄河の流域の黄土地帯で雑穀を中心とした農業生産が始まったことが仰韶文化の発見などから明らかになった。
 - この中国の新石器時代の文化は彩文土器(彩陶)を持ち、磨製石器を使用する前期新石器文化である。
 - 次いで前3000年代(5000年前)になると、黄河下流に黒陶を標識とする竜山文化が後期新石器文化として出現し、やがて青銅器文明の殷王朝が黄河中流に現れる。
 - **黄河文明という見方**：
 - スウェーデンの地質学者アンダーソンが仰韶遺跡を発掘しており、黄土が広がるコムギ地帯が中国の文明の発生地であると考えられるようになった。
 - **しかし、1970年代から、長江流域の河姆渡遺跡などで、仰韶期あるいはそれよりも古い稲作文明の存在が報告されるようになり、黄河文明を中国文明の発生の地とする見方は修正がせまられ、現在ではその両者を含めて中国文明と捉えるようになってい**る。
 - また中国の考古学の発展で、より詳細な地域的文明の編年が進んでいる。
 - **最近**は中国文明に含めている：
 - 黄河流域に発生した新石器文化とそれを継承した都市文明は、総称して黄河文明と言われ、四大文明の一つとされてきたが
 - 最近ではほぼ同じ時期に長江流域でも新石器文化が認められるので、
 - **黄河・長江文明(河江文明)、または「中国文明」ととらえることが一般的になっている。**
- 『**要注意の記述!**』
 - 黄河文明を唯一の文明としてきた従来の見方に囚われた記述が見られる。

- **長江文明** : 古代文明の一つ。長江流域の文明。現在は中国文明に包含させる。
 - 従来、中国の文明は「黄河文明」と言われ、黄河流域に興った、とされてきた。
 - しかし、現在では、**長江(チャンチアン)下流域にも独自の農耕文明が存在していたことが判明している。**
 - そこで黄河文明という用語は使用せず、「中国文明」または「河江文明」(河は黄河、江は長江を表す)という言い方が一般的になってきている。
 - この長江流域の文化では、前5000～3300年頃の**稲作農業の遺跡**として知られる河姆渡遺跡などである。
 - 最近では**稲作農業の起源**を長江下流に求める説も出されている。
 - なお、長江文明には、前3300年～前2200年頃の浙江省を中心とした新石器段階の良渚文化、上流の四川地方に独自の発展をした青銅器文明である三星堆文化が最近注目を集めている
- **河姆渡遺跡** : 長江下流の新石器時代中期、紀元前5000年頃の稲作が明らかな農耕遺跡。長江文明の中心遺跡として重要。
 - 河姆渡(かぼと)遺跡は、長江の下流域の杭州湾南岸の沖積低地に位置する**稲作農業(水稲)**を基盤とした紀元前5000年頃～3300年頃の新石器時代中期の遺跡であり、
 - 大量の稲粃、稲殻、粃殻などが平均して20～50cmにわたって堆積し、最も堆積の厚いところでは1mに達していた。1970年代に行われたこの発掘で、長江下流域に稲作の起源をもとめる説が強まった。
 - 現在では長江中流域の湖南省彭頭山遺跡から、河姆渡文化よりも古い、紀元前7000～6000年頃に遡る栽培種の稲が出土し、**長江中流域稲作起源説**が強まっている。
- **稲作農業の起源** :
 - 重要なことは、長江下流域で河姆渡遺跡で稲作農業が発達した前5000～4000年という時期は、
 - **華北において仰韶文化が栄えていた時期と同時期であり、** **『要注意の記述！』**
そちらはヒエ・アワを中心とした畑作農業であったことである。
 - これによって、従来は黄河流域の仰韶を中心とした黄河文明が中国文明の源流として強調されてきたが、それとは別に、稲作農業を基盤として発展した長江文明の存在が明らかになった。
 - 最近では黄河流域の文化と長江流域の文化をあわせて中国文明として捉えられるようになってきている。

新しい歴史の学習書は『要注意の記述』

- 中国の歴史は、黄河文明が中心で、「四千年」は5000年に延ばし、稲作では古い長江文明があるが、それを含めて中国文明と捉える。
 - 長江文明の存在は、否定できないが、中心は黄河文明としている。
- 従って、次に出てくるのは、新しい時代の長江文明で、やがて消滅し、黄河文明に吸収されたように記載される。
- **良渚文化：長江下流の新石器時代の後期を中心とした稲作農耕文化**
 - 中国の長江の下流域の浙江省一帯にひろがる、良渚遺跡を代表とする新石器時代後期の文化。前3300年～前2300年頃に稲作農業を発達させ長江文明の存在を示している。
 - 良渚遺跡は浙江省余杭市にある。長江下流にある太湖周辺の浙江省から江蘇省にかけて同時期の遺跡が散在しており、それらを総称して良渚文化という。
 - 特徴は水田農耕の様々な石器とともに、多彩・多様な玉器(ひすいなどの石を磨いて作る持ち主の威信を示す財)が出土していること、それらを副葬した墳丘墓が作られていることなどである。
 - **集約的農業と首長制社会の形成**
 - 良渚文化は新石器時代の中期末から後期に属する稲作文化で、稲作農耕がより集約的に発達した姿を示している。農耕に伴う石器には、収穫用の石鎌、田起こし用の石犁、水田の土地をかき混ぜる千籬(せんぶ)など多様化し、灌漑を利用した集約的な水田農耕が行われていたことを示している。
 - 遺跡数もこの時期に増加しており、生産性の向上が人口の増加をもたらしたと考えられる。また、墳丘墓や玉類を副葬した墳墓の出現は、階層化が進み、首長が出現したことを示しており、良渚文化期は首長制社会の成立した時期と考えられる。
 - 良渚文化は紀元前2300年頃、急速の衰退した。
 - 原因は不明だが、このころから各地で石製の武器類が多く出土するようになり、あるいは地域的な緊張関係による衝突が繰り返されたのかも知れない。
 - また前3000年紀後半の顕著な温暖化によって良渚文化の栄えた太湖周辺の広い範囲が水没したためとの見方もありうる。

- **黄河文明と長江文明** : 中国史を簡単に学ぶ

- 北部を流れる黄河、中部を流れる長江

- 中国大陸には西から東へ二本の大河が流れています。
- 従来、中国の農耕文明は黄河の流域で誕生し、後に長江から中国全土に広がって行ったと考えられていました。
- しかし近年遺跡発掘の調査において、長江流域の農耕誕生は黄河文化よりも早く、大河流域を離れたところでも独自の農耕社会が発展していることが分かってきました。
- 北京原人の発見にはじまった農耕以前の歴史も、明らかになってきました。

- **黄河と長江流域で農耕がはじまる**

- 中国の歴史は、黄河流域に発生した古代文明にさかのぼるとされる。しかし近年の調査では、長汀(揚子江)流域にも古代文明があったことがわかっている
- 黄河流域では、前6000年までにアワなどの雑穀を中心とした農耕がはじまっていたが、**同じ頃**、長江の流域では稲を中心とした農耕がはじまっていた。
- 前5000年～前4000年には、それぞれの流域で農耕技術が発達し、小さな村落が生まれた。黄河中流域には、文様のある彩文土器(彩陶)を用いる仰韶文化がおこった。
- 前3000年～前2000年になると、
 - 地城間の交流が活発になり、黄河と長江を含む広い地域で、竜山文化がおこった。
- 竜山文化は、薄手で光沢のある3本足の黒陶の使用が特徴だ。
 - それぞれの地域では、支配者層が強大な権力を持ち始めていたと考えられてい

黄河文明

- 仰韶文化(前期) 竜山文化(後期)
 - 黄河文明は黄土層の上に開かれた農耕文明です。
 - 黄土は粒子の細かい軽い黄色の砂で、水を加えると肥沃な土壌となります。
 - 乾燥したアジア奥地の空に舞い上がり、遠く運ばれ、黄河流域の平原に積り、農耕の発生を促しました。
 - 濁流の黄河から直接に水を引くのは難しく、井戸を掘り灌漑しました。
- 新石器時代に誕生した黄河文明は、アワとキビの栽培を主とし、前期の**彩色土器**を特徴とする仰韶文化と後期の**黒陶**を特徴とする竜山文化に大別されます。
 - 彩色土器は、少し赤みをおびた土に赤・黒・白の顔料で魚紋や人面などの図柄が描かれています。
 - **黒陶はろくろを使って仕上げられた黒色のつやのある薄手の良質な土器です。**
- 仰韶文化の遺跡は、北京原人の発見と同じ頃黄河の中流域の仰韶村で発見され、紀元前2500年頃のものとして推定されました。
 - しかし、西安の近くでも発掘され、紀元前5000年～4500年のもので推定されました。
 - 濠で囲まれた集落に竪穴と地上の住居があり、**アワとキビを栽培**して犬や豚を飼っていたようです。
 - 近年、さらに古い紀元前6000年頃の遺跡が広い地域で出現しています。
- 黄河の下流で発掘された竜山文化の遺跡は、紀元前3000～2000年のもので、黒陶のほか、城壁がある集落の跡、占いに使った骨の出土、土器の形など、殷の前身です。
- 黄河の中流域一帯からは、さらに新しい遺跡が発掘され、中には青銅器や原始的な文字も発見されました。

長江文明

- 長江文明は、温暖な気候に恵まれた水稻栽培
 - 長江下流の河姆渡(きむと)遺跡がその代表で、紀元前5000年頃のもので推定され、**黄河流域の判坡遺跡とほぼ同時代のものです。**
 - 河姆渡遺跡では、大量の米やわら、もみの層や水稻栽培に使った骨製のスキが発見されています。
 - 人々は高床式の住居に住み、はたを織り衣服は自給し、犬や豚を飼っていました。
- 近年、長江の中流域からは、河姆渡遺跡よりさらに古い、紀元前1万年前後の水稻栽培の跡が発見されています。
 - 稲作の発祥地は雲南・アッサム地方と考えられていましたが、最近では長江中流説が有力です。
 - これにともなって、日本に渡ってきた稲作も、長江中流から朝鮮経由又は中国の福建、台湾、沖縄経由が有力視されています。
- 長江流域、下流デルタ地帯で発見された紀元前3000～2000年の**良渚文化は、黄河流域の黒陶竜山文化の時期です。**
 - 大規模な集落遺跡の中に宮殿又は神殿の祭壇があり住居跡の分布や墓地の状況から、貴族・戦士と奴隷の階層に分かれていたことが確認できます。
 - 良質な玉器が大量に出土したのも中国では初めてのことでした。
 - さらに長江上流に近い三星堆で発掘された異様な仮面や人頭像、立人像など特色のある青銅器でした。
- 三星堆文化は、竜山文化や河姆渡文化の頃に始まりますが、**黄河と長江両文化の影響を受けながら独自の文化を残しました。**

- 中国の正統な意見のように見えるHP「Chinese history 黄河文明と長江文明」
 - この記述を見ると、
 - ① 矢張り、黄河文明が中心
 - ② 長江文明は、時代的に稲作では古いが
 - ③ 黄河文明も、発掘が進むと、古い遺跡や、青銅器や文字なども発見される。
 - ④ 長江を含めて「中国文明」と云おう。
 - 何故か、長江文明を矮小化し、黄河文明を持ちあげている。
- 日本の世界史の教科書や学習書も同様の記述となっている。
- 何故か、明らかになっている長江文明の姿を伝えようとしない。これが不思議！



中国まるごと百科事典 より引用

- [先史時代～その2～](#) 2013/07/31
- [中国史年表](#), [中国歴史](#)
- ここでは、中国の先史時代としてB.C.14000以降の、中国で発掘された旧石器時代の遺跡を中心に年代順及び地域別に記載しました。年表のサイズが大きいので、こちらから別ページで御覧ください。
- 中国暦年表 先史時代～その2～ は、巨大な年表になっている。
 - [この年表に従って、長江文明の紹介を記してみる。](#)

長江中流域

• 玉蟾岩(ぎょくせんがん)文化 (16,000~14,000年前)

- 【湖南省】(紀元前14000頃~紀元前12000頃)湖南省道県で1993年と1995年に発掘された洞窟遺跡
- 稲の籾殻が発見され、形状は野生種と栽培種の特徴を、またジャポニカ米とインディカ米の特徴のいずれも併せ持ち、仙人洞・呂桶環遺跡同様、**野生から栽培への過度期**に当たる時期と考えられています。栽培稲か天然稲かの区別はついていません。**さらに、土器片も見つかっています。**

• 仙人洞/呂桶環(せんになどう/ちようとうかん)遺跡 (14,000年前頃)

- 【江西省】(紀元前12000頃)江西省万年県で1993年と1995年に発掘された、
- 旧石器時代末期から新石器時代初期にかけての洞窟遺跡。
- 石器や大型動物の骨製器、**丸底土器の破片、栽培稲の痕跡**が発見されました。
- これらは焼畑による陸稲栽培と考えられています。
 - 追記:2012年に中国・米国の調査チームが1.9~2万年前とみられる土器片280点を発見しました。

• 八十垱(だん)遺跡 (10,000年前ごろ)

- 【湖南省】(紀元前8000ごろ) 1986年に発見された最古級の環濠集落です。
- 紀元前8000年ごろの、**集落を堀で囲んだ跡、大量の墓、住居、陶器、石器、骨器**、さらに**栽培稲の籾殻**が発見されました。

• 彭頭山文化 (9500年前~8100年前頃)

- 【湖南省】(紀元前7500頃~紀元前6100頃)
- 1988年に湖南省沅県彭頭山で発見された**環濠集落**です。
- 紀元前7000年頃の米のもみ殻などが発見され、**稲の散播農法**としていたと考えられています。

- 長江中流域では:16,00年前からのイネ(米)のもみ殻が発見され、土器片も出る。これは、文明史上、重大な発見。
- 更に、14,000年前、10,000年前と「イネ(米)の栽培種と判明した」「もみ殻」が発見され、土器/陶器が出土。
- 8,000年以上前に環濠集落の形成まで繋がる。
- この貴重な文明の発見には、驚かされる。



遼河流域・黄河流域の文化

・ 裴李崗文化 (はいりこうぶんか) (9,000～7,000年前)

- • 【黄河中流域】(紀元前7000頃～紀元前5000頃)
代表遺跡は河南省新鄭県裴李崗で、華北各地、豫中一帯・豫北・豫南に分布しています。
- **円形・方形の竪穴式住居**に暮らし、粟作を中心とする**畑作農業**が行われていました。
- 焼成温度が低く彩文の無い脆い紅陶、磨製の石斧、石棒などが出土しています。
- また、住居を中心として墓葬の遺跡も見つかっています。

・ 後李文化 (こうりぶんか) (8,500～7,500年前)

- • 【山東省黄河下流域】(紀元前6500頃～紀元前5500頃) 新石器時代の文化。
- **方形の竪穴式住居**に住み、イヌやブタを飼っていた痕跡が見つかっています。
- 紅褐陶の陶器や各種石器、地下の貯蔵穴、墓穴なども多数発見されています。
- 後李文化に属する遺跡は山東省の平野部からいくつか発見され、同じく山東省で見つかる北辛文化へと引き継がれていきました。

・ 興隆窪文化 (遼河流域) (8,200～7,400年前)

- • 【内モンゴル自治区から遼寧省】(紀元前6200頃-紀元前5400頃)
- **ヒスイなどの玉製品(玦：けつ)の出土する文化としては中国最古**のもので、なおかつ龍の出現する文化としても中国最古のものです。
- 平底円筒状の、比較的低い温度で焼いた土器(陶器)が出土しています。
- **環濠集落**で、環濠の中は2万平方mもある大集落。埋葬の風習も独特のものであり、いくつかの遺骨は住居の下に埋葬されていました。

- **長江文明**より年代は下がり、やっと、畑作農業が開始され、個々の住宅が発掘されたもの。長江流域の環濠集落に比べると、差は大きい。
 - 遼河流域の玉製品や龍の出現は、不思議な進展具合に思える。



河姆渡文化 (7,000年前頃～5,400年前頃)

- 【浙江省】(紀元前5000頃～紀元前3400頃)
- 1973年、浙江省余姚県河姆渡で遺跡が発見されました。
- 多量の稲粃(インディカ米が7割でそのほかジャポニカ米など)の堆積があり、さらに稲作工具である木製の柄をつけた170個余の骨耜(鋤先)が出土したことから、稲作を行っていたことがわかっています。
- **黒陶が出土**(丸地注記)
- また、**木造ホゾ組みの高床式住居**に暮らし、**機を織り、うるし**を使用していたと考えられています。



馬家浜(まかほう)文化 (7,000年前頃～5,800年前頃)

- 【浙江省】(紀元前5000頃～紀元前3800頃)
- 長江河口付近の太湖から杭州湾北岸にかけての地域に広がっていた文化です。
- **灌漑**が行なわれ始め、コメを栽培していたほか、ブタの飼育を行っていた痕跡や、ノロジカなども見つかり、**動物の狩猟や飼育**も行なっていたことがわかります。
- また**ヒスイなどによる装飾品**や、**比較的高い温度で焼いた紅陶、衣服の繊維**なども発見されています。



- 長江の中流域から移り、
 - 下流域では、稲作が水田稲作となり、稲作の道具も発展したことが判る。
 - 木造ホゾ組の高床式住宅や、機織り、うるしなど、一気に高い文明に入った。
 - 河姆渡と馬家浜で違いがあるが、共に、高い文明が築かれたことが判る。



- ・ **北辛文化** (ほくしんぶんか) (7,300年前～6,100年前)
 - 【黄河下流域】(紀元前5300頃～紀元前4100頃)
 - ・ 代表遺跡は山東省騰県北辛。大汶口(だいぶんこう)文化の遺跡の下から発見されました。
 - ・ 黄褐陶や紅陶を特色とします。**一部ではさらに高い温度で焼いた灰陶や黒陶も出土しています。**
 - ・ 石斧や石鎌などに用いた磨製石器や打製石器、骨角器なども発見されました。
 - ・ 採集や狩猟のほかに、**雑穀を栽培する原始的な農業**や、**ブタやスイギュウなどの飼育**がおこなわれていたことがわかっています。
- ・ **後岡文化** (こうこうぶんか) (7,000年前～6,100年前)
 - 【黄河下流域】(紀元前5000頃～紀元前4100頃)
 - ・ 代表遺跡は河南省安陽市後岡。北辛文化を継承して発展しました。
- ・ **仰韶文化**(ぎょうしょうぶんか、ヤンシャオぶんか)【黄河上中流域】 (6,800年前～5,000年前)
 - (紀元前4800頃～紀元前3000頃)(西安付近) **キビ、ヒエ、アワなどの雑穀を栽培。**
 - ・ 1921年、河南省仰韶村で発見された**彩陶**(赤地に彩色した土器)を特色とする文化です。
- ・ **仰韶文化半坡**(はんぱ)類型 (6,800年前～6,000年前)
 - 【黄河上中流域】(紀元前4800頃～紀元前4000頃)
 - ・ 代表遺跡は陝西省西安市半坡。
 - ・ 裴李崗文化と老官台文化が融合し、発展しました。**紅陶が主流です。**
 - ・ 母系制で、**農村の階層化**がみられます。
- ・ **仰韶文化廟底溝**(びょうていこう)類型 (6,000年前～5,500年前)
 - 【黄河上中流域】(紀元前4000頃～紀元前3500頃)
 - ・ 半坡類型文化が拡大しつつ、後岡文化や大汶口文化の影響も受けました。
 - ・ 代表遺跡の西山遺跡からは、**総長300mの城壁**の基底部や北門・西門の他に、城内からは200余棟の住居跡や228基の共同墓地が出土しています。
 - ・ **ろくろの使用**が見られます。
 - ・ 原始氏族性社会の残る**環壕集落**で、住居は半地下の竪穴式です。
 - ・ 他にも区画された共同墓地も見つかっています。



大溪文化 (6,400年前頃～5,300年前頃)



- 【重慶市及び湖北省から湖南省の三峡周辺及び両湖平原】(紀元前4400頃～紀元前3300頃)
- 1958年、重慶市巫山県大溪で遺跡が発見されました。
- 出土土器は紅陶を特色とし、**稲作の灌漑農法が確立**し、竹編みの泥壁のある家屋を中心とした**環濠集落**なども発見されています。
- また、**葛を使用した織物**が発見されています。
- 長江下流のデルタ地帯との文化の交流があったことがわかっていて、白い皿などの遺物は、太湖周辺の馬家浜文化の遺跡からも発見されています。
- 逆に、ヒスイの玉などの遺物は、馬家浜文化の影響を受けた可能性があります。
- 代表的遺跡の**城頭山遺跡**からは、紀元前4300年頃の城壁が見つかっていて、**中国最古の城跡**と見られています。

- 長江下流で発展した文化が、長江中流域に再び戻り、更なる進展を遂げた。
 - 紅陶、玉、灌漑農法の稲作、環濠集落が進化して城に発展した。



• **紅山文化** 遼河流域（5,400年前～4,300年前）

- • 【遼寧省西部・内蒙古東南部・河北省北部】（紀元前3400頃～紀元前2300頃）農業を主とした文化
- 彩陶文化の系統で、黒彩土器が発掘されています。**細石器**を特徴とし、**玉器**も出土しています。
- **龍などをかたどったヒスイなどの玉**から、現在の中国につながる文化や存在の可能性が考えられています。

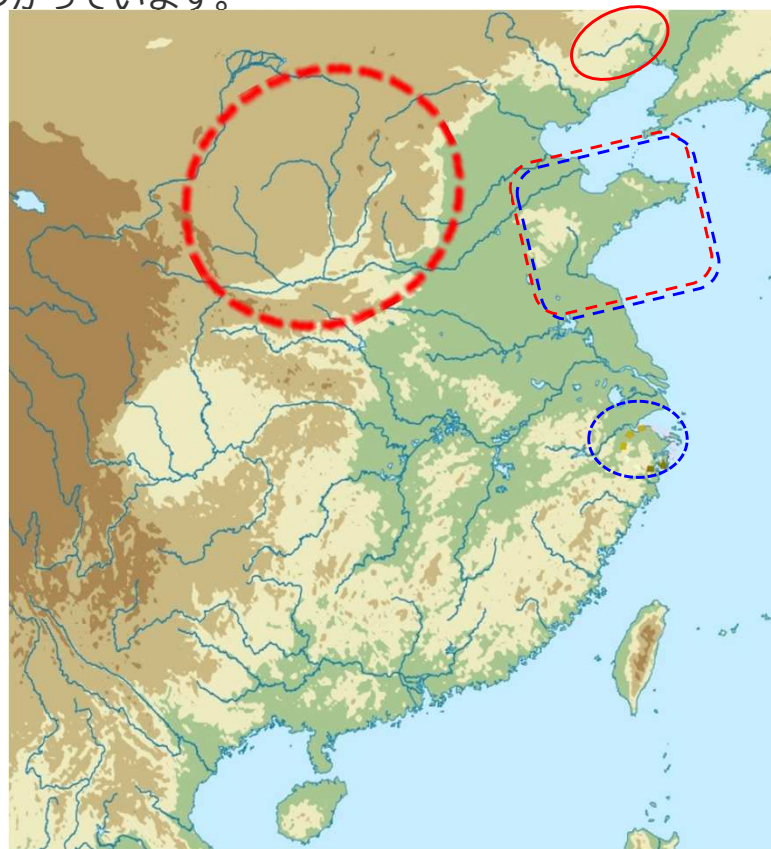
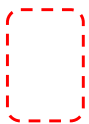
• **崧沢(すうたく)文化** 長江下流域（5,800年前～4,200年前）

- • 【上海市青浦区崧澤村】（紀元前3800年頃～紀元前3200年頃）長江下流の太湖周辺に存在した文化です。
- 遺跡からは石器や骨器のほか、墓穴からは**随葬品として多数の玉器**が発見されていて、玉による腕輪などの装飾品が作られ始めたことがわかります。
- また陶器では**高温で焼いた黒陶、灰陶**なども出土していて、土器片の中には、**刻画文や刻画符号**などが刻まれているものもあります。
- 遺跡からは**籾殻など稲作の痕跡**を示すものや、食べた獣や魚などの骨も見つかっています。

• **仰韶文化後期**（5,500年前～） 次頁



• **大汶口文化**（6,100年前～4,600年前） 次頁



- **仰韶文化後期** 黄河上中流域（5,500年前～）

- （紀元前3500年以降）このころには貧富の差がみられ、**社会の分業・階層化**が進みました。

仰韶文化半坡後期類型【黄河中流域】 / 仰韶文化西王村類型【黄河上中流域】

仰韶文化大司空類型【黄河上中流域】 / 仰韶文化秦王寨類型【黄河中流域】 の四種の文化に大別されます。

- 仰韶文化期の人々は**粟・黍を栽培**し、豚・犬を飼い、また**鹿などの狩猟**も行っていました。
- 主として**竪穴住居**に住み、集落を形成し、石斧・石包丁などの磨製石器や彩陶を使用していました。
- 彩陶は薄い赤色の地に赤・白・黒などの色を使用して文様が施されている**素焼きの土器**で甕・鉢・碗型のものが多く、焼成温度は約1000度位です。

- **大汶口文化**（6,100年前～4,600年前）

- 【黄河下流域】（紀元前4100頃～紀元前2600頃）

● 1959年、山東省寧陽県堡頭村で遺跡が発見され、のちに山東省泰安県大汶口でも発見され、こちらが代表遺跡となりました。

● 前期は紅陶が主流でしたが、**後期には黒陶・灰陶が主流**となりました。

● 後期の**卵殻黒陶**の高柄杯は、精巧で美しく、山東龍山文化に受け継がれました。

● 出土物からこの文化が仰韶文化と同時期かそれよりも古いことが確認されました。

● 大汶口文化に関係するのは遺跡の層の中でも中間部分だけで、深い層は北辛文化（紀元前5300年 - 紀元前4100年）に、

● 新しい層は龍山文化（紀元前3000年 - 紀元前2000年）に関係する特徴が見られます。

● 遺跡からは**トルコ石・ヒスイ・象牙などでできた加工品**、および陶器が多く発見されています。

● 早期（紀元前4100年 - 紀元前3500年）、中期（紀元前3500年 - 紀元前3000年）、後期（紀元前3000年 - 紀元前2600年）と、大きく3つの時期に分かれます。

● 初期においては階級差は大きくなかった。人骨の性別などから**当時の社会は母系氏族共同体**だったと推測されています。

● この時期は鬻(き)といわれる三足器や紅陶でできた鼎など多様な形をした陶器が特徴です。

● 中期に入ると出土する陶器は紅陶にかわって**灰陶・黒陶**が増え、量の大きさや文様・形の多様さが明確になります。

● また**父系氏族共同体が確立**した様子がみられます。

● 後期に入ると墳墓の中に木製の棺が現れます。父系氏族共同体の末期に入り**階層化が進み**、大量の副葬品が発見される墳墓もあります。

● 土器は**灰陶・黒陶が主流**となり、薄く精巧になってゆき、黒陶や**卵殻陶**（卵の殻のような薄さの陶器）を特徴とする龍山文化につながる。

● 稲作は、5000年前、後期から出現。

注：ヒスイとあるが、軟玉＝ホータン産（硬玉＝糸魚川のヒスイでは無い）

• 屈家嶺(くつかれい)文化 (5,000年前～4,600年前)

- • 【湖北省京山県屈家嶺】(紀元前3000頃～紀元前2600頃)
1954年、湖北省京山県屈家嶺で遺跡が発見されました。
出土土器は黒陶を特色とします。
大溪文化を継承し、**職集団の分業化**が進み、**城壁都市**が出現しており、城内には運河もありました。**稲作の痕跡**もあります。
甕棺墓の副葬品から、貧富の差があったことがわかっています。
- 独特の遺物としては、陶でできた鉢や**彩色紡錘車**があります。彩色紡錘車は紡織の発達を示すものであり、石家河文化へも紡錘車は引き継がれました。
- 初期は長江中流の大溪文化を引き継ぎ、後期は龍山文化へとつながっています。

• 良渚(りょうしよ)文化 **南蛮:越族** (5,200年前～4,200年前)

- • 【浙江省】(紀元前3200頃～紀元前2200頃)
- 1936年、浙江省余杭市良渚鎮で400近い遺跡が発見されました。
- 馬家浜・崧沢文化を継承して発展し、**高水準の玉器**が特色です。
- 柱形・錐形・三叉形など多様な玉器、**絹織**や麻織、竹編物、**ロクロによる黒陶・灰陶製造**が行われていました。
- 稲・豆・ゴマ・落花生などの穀物が多く発見されています。
- このころには**父系社会に移行**し、階級制度と貧富のある**都市国家が形成**されていたと考えられています。
- 分業や階層化も行なわれたと見られ、殉死者を伴う墓が発見されています。
- 黄河文明の竜山文化とは相互に関係があったと見られています。
- **高床住居で、農業は稲・胡麻・ソラマメ・マクワウリ**



• **馬家窯文化 西戎:羌** (5,100年前～4,700年前)



- 【甘粛・隴西平原・隴東山地・河西の黄河上流域】(紀元前3100頃～紀元前2700頃)
中国西北の内陸部である黄河上流部の甘粛省や青海省に存在した新石器時代後期の文化です。
- 仰韶文化廟底溝類型が地方分化したもので、齐家文化に至る過渡的文化です。
- 土器は彩陶が発達し、**随葬品の80%が彩陶**です。
- 石嶺下類型期・馬家窯類型期・半山類型期・馬廠類型期の4類型に分類されます。

• **中原龍山文化 東夷(羌+越+東胡)** (5,000年前～4,000年前)



- 【黄河中流域】(紀元前3000頃～紀元前2000頃)
- (河南龍山文化と陝西龍山文化)に分かれています。
- **黒陶(黒色土器)や灰陶**を特色とする文化です。
- 黒陶は薄手で精巧に作られた黒色の土器で、製作には**ロクロが使用**されていました。
- 鬲(れき、湯をわかしたり、蒸すのに使う)・鼎(てい、物を煮るのに使う)などの三足土器が特徴で、**焼成温度は約1000度以上**です。
- **後期には銅器の鑄造もおこな**っていました。
- 農具や農業技術が進歩し、仰韶文化期よりもさらに大きな**集落(邑)**が形成されるようになりました。
- 中原龍山文化は仰韶後期文化を継承し、灰陶が主流。
- **骨を灼いて罅割れを見る占ト**もこのころ始まったとされています。
- 夏王朝につながる遊牧発の父系集団です。
- **コメの栽培も始まっており、カイコを育てる養蚕業の存在と小規模な絹織物の生産の開始も確認**されている。

• **大汶口文化** (6,100年前～4,600年前)



- 前出



4,500年前～4,000年前 ①

・ 宝墩(ほうとん)文化 長江上流 (4,500年前～3,750年前)

- 【成都市新津県龍馬郷宝墩村】(紀元前2500頃～紀元前1750頃)
- ・ 成都平原の岷江扇状地に、新石器時代の城壁で囲まれた複数の集落跡が発見されました。
- ・ 日本では龍馬古城とも呼ぶ。
- ・ 運河として使われていたと見られる河道跡、**巨大神殿**とおもわれる柱穴などがみつかっています。
- ・ また、**縄紋様のある陶器**も発見されていて、**三星堆遺跡**から出土した陶器との関連性が見られます。

・ 石家河(せきかが)文化 長江中流域 楚:三苗 (4,500年前～4,000年前)

- 【湖北省】(紀元前2500頃～紀元前2000頃)
- ・ 1990年、湖北省天門県石家河で発見された、長江中流域で最初かつ最大級の**都市遺跡**です。
- ・ 土器、塑像、**紡績の用具**、玉器が出土しており、屈家嶺文化を継承した灰陶器を主流とし、銅器も発見されています。
- ・ 版築による南北1.3km、東西1.1kmの城壁があり、城外から水を引き込んだり、運河として使用した跡があります。
- ・ 伝説では、石家河の住民は**三苗民族**とされ、堯・舜・禹に代表される黄河流域の勢力と死闘を繰り返したそうです。
- ・ 城壁の一辺の長さが1100～1200m、その外に幅数十mの環濠をめぐるせた、**古国と呼ばれる国家に近い巨大な防御システムを形成した母系集団**です。



・ 齐家文化 西戎:羌 (4,400年前～3,800年前)

- ・ 【黄河上流域】【甘肃省広河県齐家坪】(紀元前2400頃～紀元前1800頃)
- ・ 新石器時代末期から**青銅器時代初期**の文化です。
- ・ 黄河上流の甘肃省蘭州市一帯を中心とし、東は陝西省の渭水上流に及び、西は青海省東部の湟水河流域に、北は寧夏回族自治区および内モンゴル自治区に及んでいます。遺跡の数は300か所以上で、甘肃省永靖県の大河荘遺跡と泰魏家遺跡、武威市の皇娘娘台遺跡、青海省楽都県の柳湾遺跡などがあります。
- ・ 青海省民和回族土族自治県の喇家遺跡もこの文化との関係があるとみられています。
- ・ 遺跡の南東部には良質のトルコ石が産出され、この時期**トルコ石象嵌細工の初期**のものが見られます。
- ・ **末期には西から東へと縮小し、人口の減少に苦しめられました。**

・ 山東龍山文化 (4,600年前～4,000年前)

- ・ 【黄河下流域】(紀元前2600頃～紀元前2000頃)
- ・ 山東省章丘県龍山鎮で遺跡が発見されました。
- ・ 黒陶(黒色土器)や灰陶を特色とする文化です。
黒陶は薄手で精巧に作られた黒色の土器で、製作にはロクロが使用されていました。
鬲(れき、湯をわかしたり、蒸すのに使う)・鼎(てい、物を煮るのに使う)などの三足土器が特徴で、焼成温度は約1000度以上です。
- ・ **後期には銅器の鑄造もおこなっていました。**
- ・ このころには**農具や農業技術が進歩**し、仰韶文化期よりもさらに**大きな集落(邑)が形成**されるようになりました。
- ・ 山東龍山文化は大汶口文化を継承しており、黒陶が主流です。
- ・ 夏王朝につながる遊牧発の父系集団です。

ウィキペディア

- ・ 城子崖遺址下層から陶文が出土しました。牛・鹿の肩胛骨の卜骨も出土。
- ・ 饕餮(とうてつ)を刻んだ軟玉の斧(『中国文物精華』1992・『考古』1972-4)が出土。

大汶口文化以前ではアワ・キビ農耕が主体であったものが、山東龍山文化ではイネが出土するだけでなく、土壌の水洗浮遊選別法によって山東省日照市兩城鎮遺跡で稲が49%を占めることが示されたように、イネが主たる穀物に変化している。(次頁参照)



- 出版情報:2019-03-23. 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
- 第11章 東北アジア初期農耕化4段階説と稲作農耕の諸問題 宮本一夫(九州大学人文科学研究院)
- 3. 東北アジアの炭化米に関する諸問題 (202P~203Pから抜粋)
 - 紀元前4500頃の高海面期こそが高温期であり、この時期には黄河下流域にはイネは認められない。
 - 山東半島では紀元前6000年頃の後李文化の後、イネが消え、
 - 再び認められるのは紀元前3000年頃の大汶口文化後期からであり(王海玉・靳桂雲2014)、山東龍山文化期には黄海沿岸で稲作農耕が主体となっていく。
 - ここでは、大汶口文化以前ではアワ・キビ農耕が主体であったものが、山東龍山文化ではイネが出土するだけではなく、土壌の水洗浮遊選別法によって山東省日照市兩城鎮遺跡で稲が49%を占めることが示されたように、イネが主たる穀物に変化している。
 - 山東龍山文化段階には、稲作が黄海沿岸を伝わるようにアワ・キビ農耕地帯に受容され、さらにそれが主たる生業になる形で山東半島の東端である楊家圈遺跡まで伝播したのである(宮本2009)。

夏家店下層文化 遼河流域（4,000年前～3,500年前）

- 【内モンゴル自治区・遼寧省】(紀元前2000頃～紀元前1500頃)
- 北西は内蒙古自治区東部のシラムレン川北岸から張家口にかけて、南東は河北省北部から遼寧省西部を中心とした文化です。
- 生活の中心は**雑穀栽培**で、他に牧畜、狩猟、漁労も行われました。遺跡からは豚、犬、羊、牛、鹿などの骨が見つっています。
- 多数の**大規模集落**が発見されており、東アジアの気候が寒冷化した戦国時代や前後漢の時期よりも人口密度が高かったと推定されています。石器、骨器、陶器が見出されており、他に少数の金、鉛、漆器、翡翠、銅器、青銅器も見つっています。
- 陶器は三足型、銅器・青銅器は耳輪型が多く、骨を使ったト占も行われたもようです。
- **住居の多くは円形**で、土と石で造られ、集落は崖や急斜面のそばに造られて防御され、併せて石壁が集落の周囲に立てられていました。
- 土器・陶器や青銅器の様式などから、商文化に属する人々が北東へ移住したと考えられています。

巴蜀:羌⇒氏

三星堆文化 長江上流域（4,000年前～2,850年前）

- 【四川省】(紀元前2000頃～紀元前850頃)
- 1986年、四川省広漢市三星堆で遺跡が発見された川西文化の**仮面王国**です。
- 約2キロ四方の版築に囲まれた**城壁都市**を築いていました。
- 金器・青銅器・玉器・象牙・子安貝など遺物が多く、「立人像」「神樹」「縦目仮面」など遺物の造形も特異なものも多くみつっています。
- 史書によると古代の四川省地方では蚕叢・柏灌・魚鳧・杜宇・鼈靈(開明)の王朝が出現し、太陽神を祀っていたとされています。
- (四川省は天府の国とも呼ばれており、このころの長江上流域の中心地。)
- 内部抗争で紀元前850年ごろに滅び、新たにこの地方に拠点を作った勢力が「蜀」、「巴」という氏族国家の始まりとみなされています。
- **初期の「巴蜀文字」**はインダス文字に類似しており、特に印章はインダス印章に酷似しています。
- **巴蜀文字**: 巴蜀文化で用いられた、中国唯一の非漢字系統の文字。
- 印章の他に楽器や武器などにも施されましたが、インダス文字同様に解読はおろか、絵文字・象形文字・表意文字・音節文字など文字系統については未解明です。

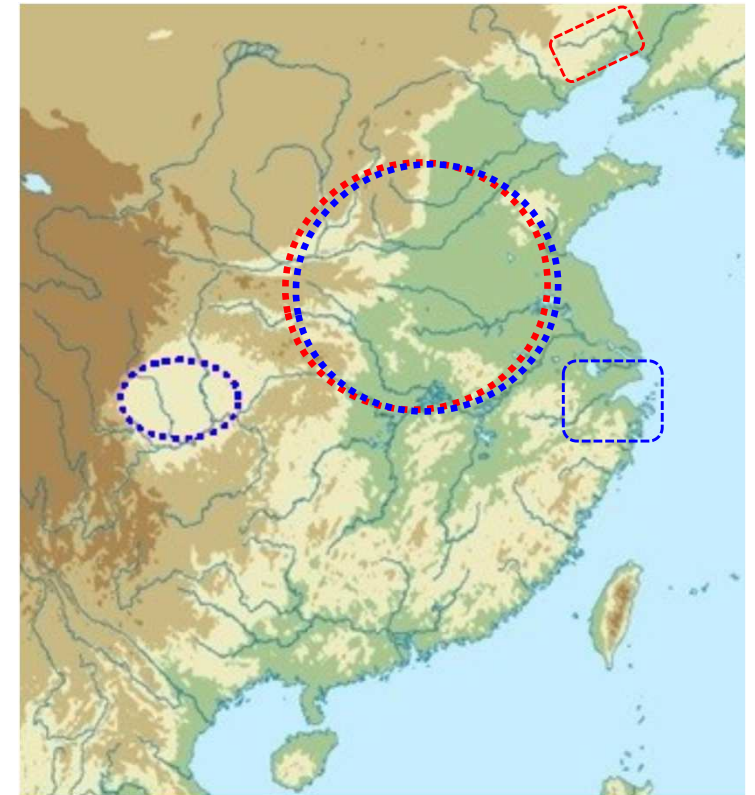
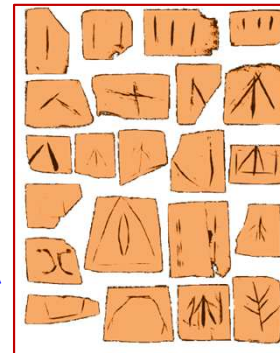


馬橋(マチャオ)文化 (3,900年前～3,100年前)

- 【上海市馬橋】(紀元前1900頃～紀元前1100頃)
- 良渚文化が終焉を迎え、この地域の人口が大幅に減少した後、上海市の馬橋遺跡を標準とする馬橋文化が興り、それまで独自の文化を育んだ江南の諸地域に、広範囲に渡る比較的均質な江南農耕文化が広がりました。
- ※黄河流域の黒陶文化後半から殷王朝、周王朝と同時期で、黄河流域から押し寄せる金属器文化の奔流に抗して、大同団結した文化圏と位置付けられています。 ???
- この後、呉・越などの国々が興亡を繰り返す春秋戦国時代に巻き込まれていきます。

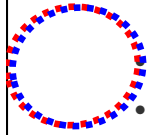
二里头(にりとう)文化 北狄+羌+東夷(越) (4,069年前～3,600年前)

- 【河南省偃師市】(紀元前2069頃～紀元前1600頃)
- 中原龍山文化河南類型から発展し、黄河中流から下流を中心に栄えた新石器時代から青銅器時代初期にかけての文化です。
- 宮殿跡や青銅器工房が発見され、2km四方の城壁跡と2基の大型基壇があることから、夏王朝の都城と想定されています。
- この時期以降、中国ではトルコ石の象嵌が多く見られるようになりました。
- 二里头遺跡三期から出土した陶器に刻まれた文字 → (ウィキペディア)
- 龍山文化層からイネは7%出土、二里头文化層からイネは70%出土。
- 二里头遺跡が本来アワ・ヒエを主体的な生業・経済基盤とする黄河流域に立地していながらも、長江流域を中心とする南方の主体的な生業・経済基盤であるイネの検出率がきわめて高い。



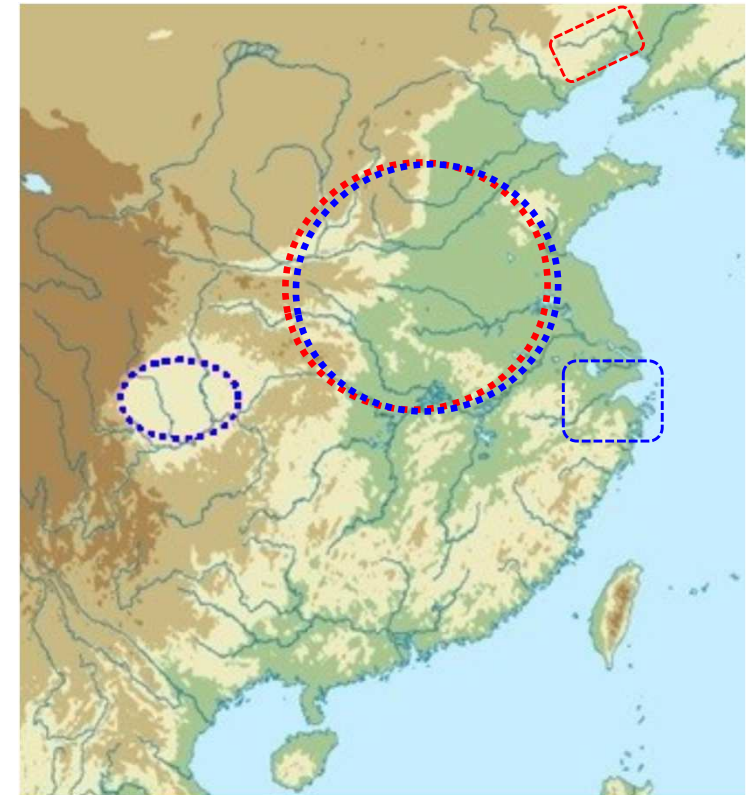
2013年学習院大 久慈大介著 科研成果報告書
中国最初の初期王朝はなぜ洛陽盆地に誕生したか？
—二里头文化の生業・経済基盤を探る より抜粋

• **二里岡(にりこう)文化 東夷:** (3,600年前~3,400年前)



【河南省鄭州市】(紀元前1600頃~紀元前1400頃)

- 中国の黄河中流から下流を中心に栄えた青銅器時代の文化です。
- **商(殷)王朝の初期の中心地**と考えられています。
- 周囲約7kmの城壁に囲まれた都城で、城壁の外に骨器や陶器を作る**大きな工房群**が位置していました。
- 工房の中には、二つの青銅器工房も含まれています。
- **青銅器を大々的に使用**する中国最初の文化であり、その初期には急速に勢力を拡大して長江流域にまで至り、湖北省黄陂県(現在の武漢市黄陂区)の**盤龍城遺跡**(長江流域で発見されている唯一の商代の都市遺跡)からは多くの青銅器が出土しています。
- 二里岡のある鄭州付近は銅の出土が少なく、**盤龍城は銅資源を確保するための前哨であったと考えられます。**
- これを絶頂として、以後二里岡文化は徐々に衰退していきました。
- 先行する二里頭文化に影響を受けており、その青銅器は二里頭文化の様式や製造法を受け継いでいますが、二里頭文化の時期よりも青銅器の様式は均一になり洗練され、青銅器の使用が広まったとみられます。
- 二里岡文化期の王城岡遺跡では**アワ・ヒエを主体とした生業・経済基盤**を中心としながらも、イネやコムギもその生業・経済基盤のなかである一定の割合を占めていたことがうかがえる。
- 二里岡文化期の二里頭遺跡では**アワ・ヒエを主体とした生業・経済基盤**を有していたことがうかがえる

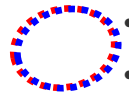


2013年学習院大 久慈大介著 科研成果報告書
中国最初の初期王朝はなぜ洛陽盆地に誕生したか？
—二里頭文化の生業・経済基盤を探る より抜粋

夏王朝成立 3,500年前以降

● 殷墟

(3,300年前～3,046年前)

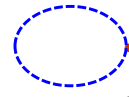


- 【河南省安陽市】(紀元前1300頃～紀元前1046)
- 殷王朝後期の遺構。清朝末期に甲骨が出土したことで1928年から本格的な発掘が始まりました。
- 大量の**甲骨**や青銅器、複数の巨大王墓、祭祀基壇が発見されています。



● 十二橋文化 巴蜀: 羌⇒氏

(3,300年前～2,500年前)



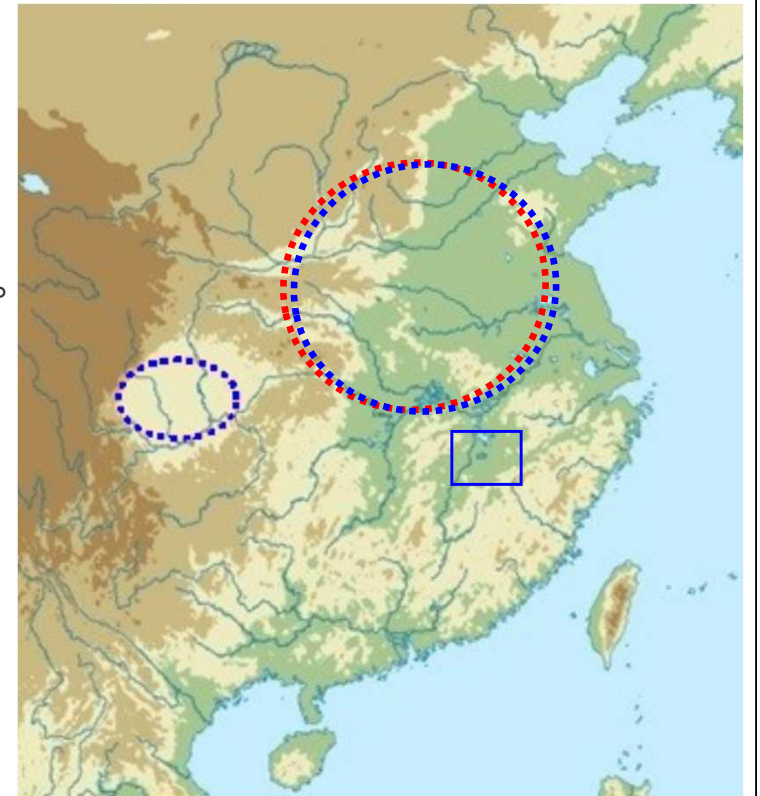
- 【四川省】(紀元前1300頃～紀元前500頃)
- 三星堆文化に続く川西文化です。
- **尖底土器**を特徴としてB.C.13世紀頃から成都方面に抬頭しました。
- 西周文化の影響が強く、克殷を援けた代償に多量の文物が導入されたものと思われ、**宮殿址**や100m四方の**基壇址**なども発見されています。
- 春秋時代中期頃に頻発した洪水で衰退し、東方から進出した巴人に征服されましたが、川西文化は巴文化と融合して巴蜀文化に発展しました。

● 呉城(ごじょう)文化

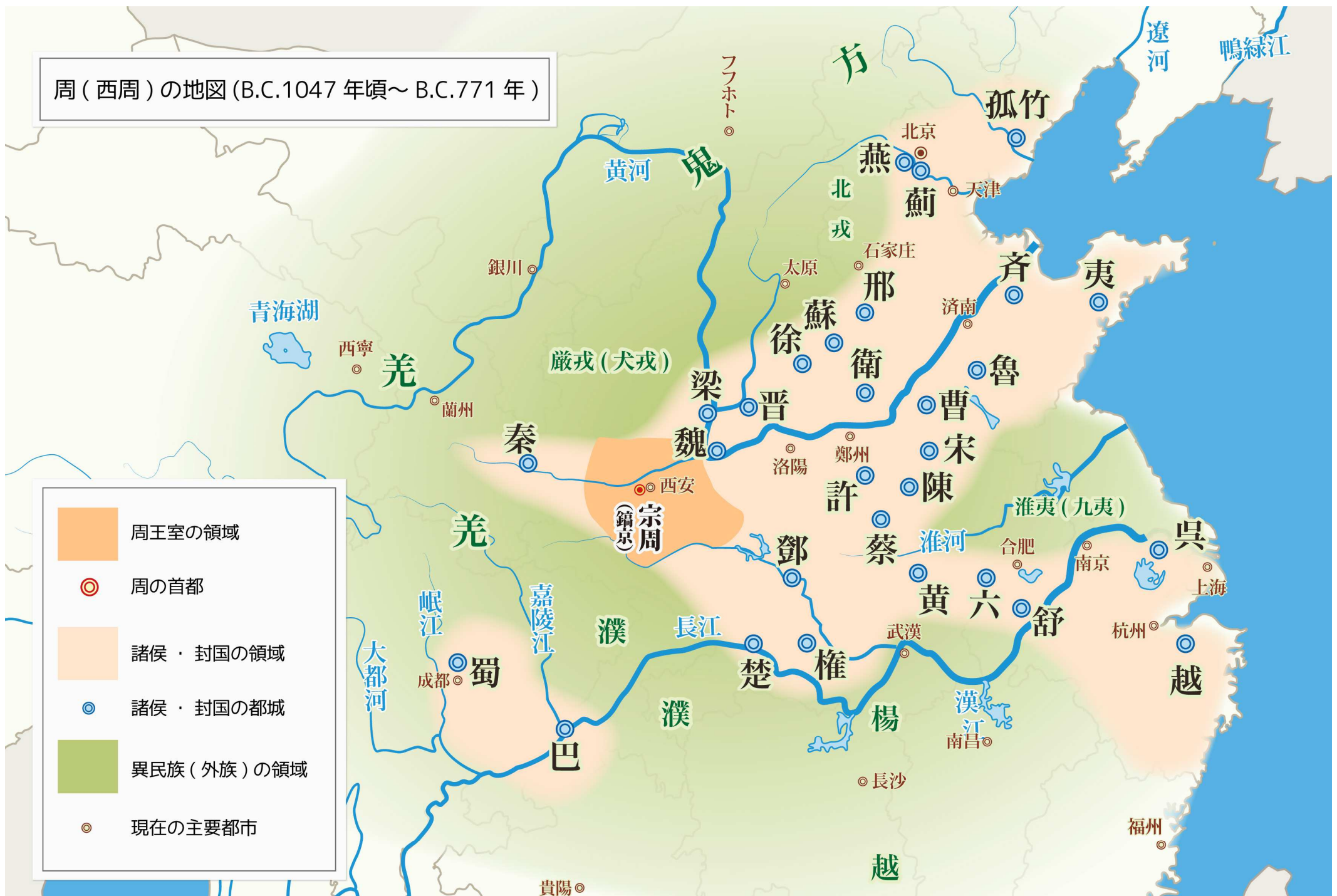
(3,400年前～3,000年前)



- 【江西省】(紀元前1400頃～紀元前1000頃)
- 江西省樟樹市呉城鎮で発見され、鄱陽湖平原一帯に展開した青銅器王国です。
- 良渚文化や石家河文化の崩壊後に二里岡文化の影響で抬頭したもので、重要な銅産地の銅嶺遺跡(瑞昌市)を有して**高度な鑄銅技術**や**印紋陶**を特色とし、盤竜城衰亡の原因を担ったとされています。
- 1989年には、江西省新淦大洋洲で堤防護岸工事中に殷代後期の大規模な墓が発掘されています。
- 副葬品は約2000点で、独特の青銅器を特色としています。
- **磁器**が発見されていて、中国文化の重要な一翼を担うこれらの文物の源流がここから出たのではないかとする説もあります。

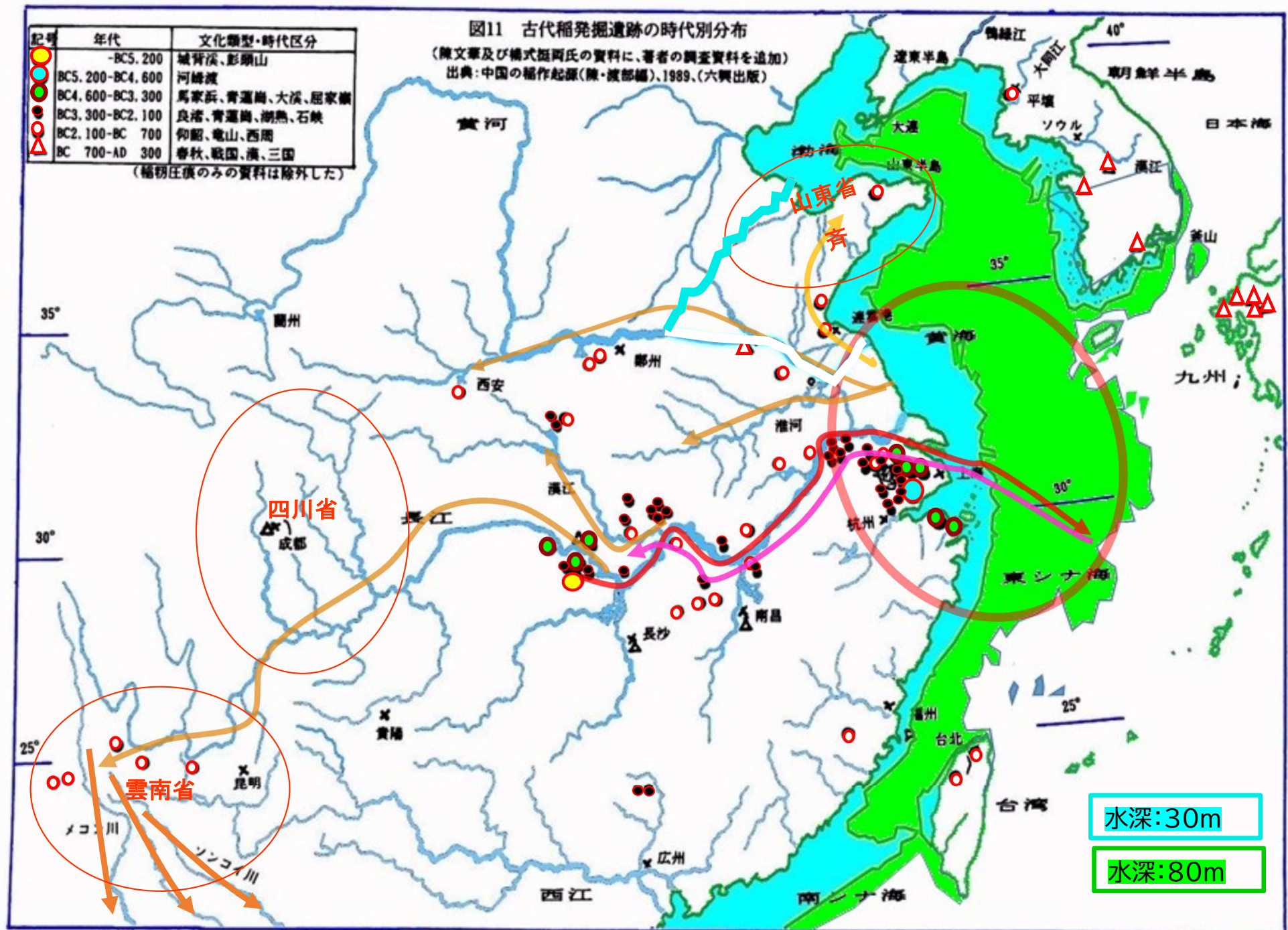


周(西周)の地図(B.C.1047年頃~B.C.771年)



	周王室の領域
	周の首都
	諸侯・封国の領域
	諸侯・封国の都城
	異民族(外族)の領域
	現在の主要都市

古代稲発掘遺跡と “稲作の伝播”



- 長江中流域で開始した稲作 : 玉蟾岩文化 / 仙人洞/呂桶環遺跡 / 八十垱(だん)遺跡 / 彭頭山文化が発生し環濠集落が形成される。
 - 黄河流域では 裴李崗文化 / 後李文化 があつたが、畑作がやっと発生した程度。
- 海進が始まり、
 - 長江下流域での発展 : 現在の東方海上で発展した水田稲作技術と文化が、海進で西方へ移動し
 - 河姆渡文化 / 馬家浜文化 を形成、灌漑がおこなわれ、機織り・漆・高床住宅/高い温度で焼いた紅陶が使われる。黒陶も使われる。土器表面に記号が刻まれ、原初文字が見つかる。
 - 黄河下流域では、北辛文化 / 後岡文化 が起きるが、雑穀を栽培する原始的な農業。
 - 黄河上中流域では、仰韶文化/仰韶文化半坡類型 が起きるが、キビ、ヒエ、アワなどの雑穀を栽培。
 - その後、仰韶文化廟底溝類型 に至り、城壁が作られ、環濠集落が形成される。
 - 長江中流では、大溪文化が起き、環濠集落で、下流域の馬家浜文化の影響を受けた陶器・玉があり、城頭山遺跡は、中国最古の城跡。
- 縄文海進後は、
 - 長江下流域では、崧沢(すうたく)文化が発生、多数の玉器、高温で焼いた黒陶、灰陶が使われ、文字の発生を示す刻画文や刻画符号が発生。
 - 黄河中流域では、仰韶文化後期に入り、社会の階層化が行われるが、キビ・アワを栽培し、焼き物も温度は低い。
 - 黄河下流域では、大汶口文化が発生、後期には、黒陶・灰陶が主流となり、ヒスイ・象牙の装飾品が出土。稲作は、大汶口文化後期から。前期には、母系氏族共同体だったものが、後期には父系氏族共同体が確立。長江文明の影響が大きいと推定される。
 - 長江中流域では、屈家嶺文化が発生、稲作が行われ、職集団の分業化が進み、城壁都市が出現。
 - 長江下流域では良渚文化となり、高水準の玉器・ロクロによる黒陶・灰陶製造が行われ、父系社会に移行。都市国家が形成されていた

稲作の発展と文明の発展 ②

- 黄河上流域では、**馬家窯文化** が生まれるも、した新石器時代後期の文化。
- 黄河下流域では、**中原龍山文化**となり、黒陶(黒色土器)や灰陶を特色とする文化でロクロが使用される。前出の**良渚文化**の特長的な陶器。農具や農業技術が進歩し、銅器の鑄造も行われ、**コメの栽培**も始まっており、カイコを育てる養蚕業の存在と小規模な絹織物の生産の開始も確認されている。長江文明の影響度が強い。
- 4,500年前～4,000年前
 - 長江上流域では、**宝墩文化**。城壁で囲まれた複数の集落跡が生まれ、巨大神殿もみつかる。
 - 長江中流域では、**石家河文化** 最大級の都市遺跡があり、灰陶器を主流とし、銅器も発見されている。古国と呼ばれる国家に近い巨大な防御システムを形成した母系集団が発生。
 - 黄河上流域では、**齐家文化** 新石器時代末期から青銅器時代初期の文化で、末期には西から東へと縮小し、人口の減少に苦しめられました。
 - 黄河下流域では、**山東龍山文化** 黒陶(黒色土器)や灰陶を特色とする文化で。黒陶は薄手で精巧でロクロが使用される。城子崖遺址下層から陶文が出土しました。牛・鹿の肩胛骨の卜骨も出土。饗饗を刻んだ軟玉の斧が出土。 稲作を含め、長江文明の影響が大。
 - 大汶口文化以前ではアワ・キビ農耕が主体であったものが、山東龍山文化では**イネが出土**するだけでなく、土壌の水洗浮遊選別法によって山東省日照市両城鎮遺跡で稲が49%を占めることが示されたように、**イネが主たる穀物**に変化している。
- 夏王朝成立 4,000年前以降
 - 黄河中流域では、**二里頭文化** 宮殿跡や青銅器工房が発見され、2km四方の城壁跡と2基の大型基壇があることから、夏王朝の都城と想定される。二里頭文化層からイネは70%出土。黄河流域に立地していながらも、長江流域を中心とする南方の主体的な生業・経済基盤である**イネの検出率がきわめて高い**。
 - 長江上流域では、**三星堆文化** 城壁都市を築き、金器・青銅器・玉器・象牙・子安貝など遺物が多く、「立人像」「神樹」「縦目仮面」など特異な造形物が多くみつまっている。巴蜀文字:巴蜀文化で用いられた、中国唯一の非漢字系統の文字もあり、夏王朝とは違う独自の文化を持つ。

- 夏王朝成立後 3,600年前以降
 - 黄河中流域では、二里头文化を受け継いだ筈の二里岡(にりこう)文化 では、商(殷)王朝の初期の中心地と考えられてる。
 - イネやコムギもその生業・経済基盤のなかである一定の割合を占めていたことがうかがえるが、アワ・ヒエを主体とした生業・経済基盤を有していたことがうかがえる。
 - その初期には急速に勢力を拡大して長江流域にまで至り、湖北省黄陂県(現在の武漢市黄陂区)の盤龍城遺跡(長江流域で発見されている唯一の商代の都市遺跡)からは、多くの青銅器が出土しています。
 - 長江上流域では、十二橋文化 三星堆文化に続く文化があり、宮殿址や100m四方の基壇址なども発見される。
 - 長江中流域では、呉城(ごじょう)文化 重要な銅鉱産地の銅嶺遺跡(瑞昌市)を有して高度な鑄銅技術や印紋陶を特色とした独自文化が生まれ、存在した。
- ✓ 稲作の発展と長江文明を重ね合わせると、強い関連性が見られる。
 - ✓ 縄文海進により、海が西に広がった。稲作適地と稲作文化は、移動せざる得ない状況になった。
 - ✓ 現在の海側に合った稲作適地から長江の伽流域へ移動。
 - ✓ 長江から北上し、淮河領域から黄河領域にかけて移動。
 - ✓ キビ・アワの畑作の文明が稲作文明の強い影響を受けた、又は置き換わったことが判る。
 - 黄帝と戦った蚩尤も共に、長江文明に大きく関わるもの同士の戦いと考えられる。
 - 蚩尤は九黎の一族の長であったとも考えられている。古代伝説的な王の存在である伏羲や女媧、神農などは、この九黎のなかから出たと考える説も存在している。(ウィキペディア)
 - 決戦の行われた涿鹿の地は、長江や黄河からも離れた北方の、北京に近い地域で、両者の戦いが、なぜ、その場で行われたか、疑問。
 - 蚩尤の味方をした石家河の住民の三苗民族は、後々までも、夏王朝以降の王朝に撲滅され続けたことも、理解に苦しむ処。

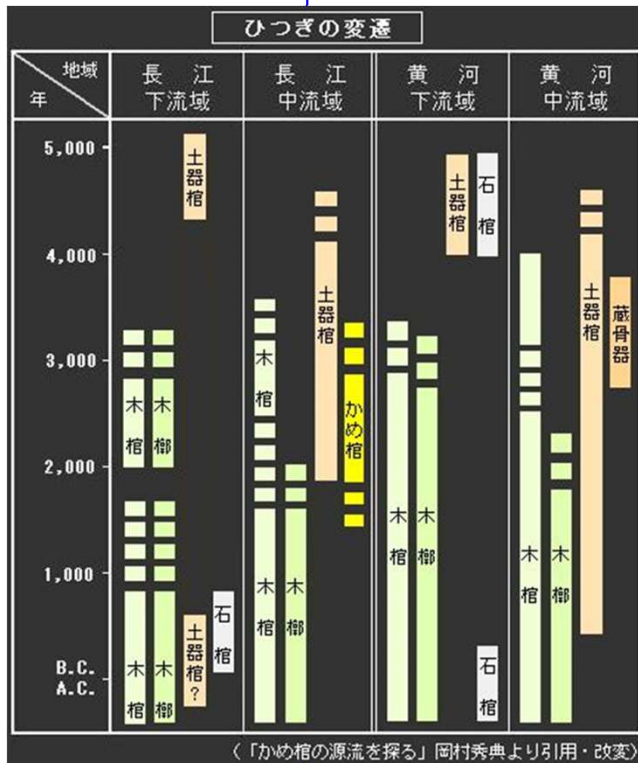
日本人⇔弥生渡来人に関わることとして、興味のある課題を示す。

- 長江下流の良渚文明(5500年前～4200年前)では、原初文字が使われた。
 - 4000年前の二里頭文化で陶器に刻まれた文字が出土。
 - 中流域の後の呉城文化(3000年前)でも陶文(古陶器にしるされた銘文や文字)が発見されている。
- 甕棺に関して:長江文明との関わり合いを示すものとして、甕棺の存在を示して置く。
 - 長江文明初期にも甕棺があらわる。
 - 長江下流から山東半島までの海岸沿いに、甕棺が出土する。
- 弥生渡来人の話した筈の日本語の痕跡が、中国に無いことが良く上げられるが、多くの民族と言語が中国大陸では失われた。
 - 失われた理由には、この長江文明/黄河文明/その他の文明の盛衰に大きく関わるものと考ええる。
 - そこで、中国の民族と言語について、多くが存在し、失われたことを示す資料を、示して置く。
- 夏王朝の祖となった禹の出生地:
 - 父の鯀(こん)が西羌の汶山・石紐(現在の北川チャン族自治州)に封じられたために同地で生まれたという。
 - 長江の上流で生まれた。
 - 浙江省紹興市の会稽山に大禹陵がある

稲作の伝播と甕棺

- 長江の中流で初めて稲作が行われた。開始した人は、倭人を含む民族。
 - 中流域では、最も古い稲作の遺跡が見つかる。
 - 最も古い稲作の城頭山遺跡(6500年前)、屈家嶺遺跡(5000年前)では甕棺が発掘された。
 - 甕棺は特異な埋葬法で倭人のものと見られる。
 - 和佐野喜久雄著「東アジアの稲作起源と古代稲作文化」
 - 水田稲作の発生と伝播のルートは、長江中流で発祥し、下流に伝播した。
 - この下流域で栽培技術が進化し・発展した。この下流域の遺跡でも甕棺が出土する。
 - 下流で発展した水田耕作の技術が逆に、中流・上流に、伝播。
 - 長江下流から北側の淮河・黄河(旧河川)の流域：江蘇省・山東省へ伝播。
 - 倭人は、中流域を越え上流へも移動。
 - 四川省・雲南と、長江下流・淮河・黄河の下流域の、二つのグループに別れた。
 - 四川・雲南グループの中には、雲南の横断山脈を南北に流れる複数の東南アジアの大河の源流に沿って南下したグループが居た。
 - その一部は、ベトナムへ、タイへ、ビルマ(ミャンマー)を經由して、インド・パキスタンへ、その地で、インダス文明を築いた。インドのタミル人の遺跡には、甕棺が出土する。

伊藤 俊幸(イトウ トシユキ)氏のHP日本人の起源 弥生文化と渡来人の登場の図を借用



- ↓は甕棺出土遺跡

長江文明の後になっても出現する甕棺

- 黄河河口北側にある河北省黄驛市郭堤城遺跡付近で2016年に、110以上の甕棺墓が見つかる。戦国時代(紀元前403年-同221年)から漢代(前漢として紀元前206年-8年)の遺跡
- 長江文明の古代中国甕棺埋葬の風習は、凡そ紀元前3000-前2000年の間に行われたが、途切れることなく**戦国・漢代**まで伝えられたことが判明。
- **徐福一行が渡来するBC219年頃にも、中国では甕棺埋葬が行われていたことが判明。**



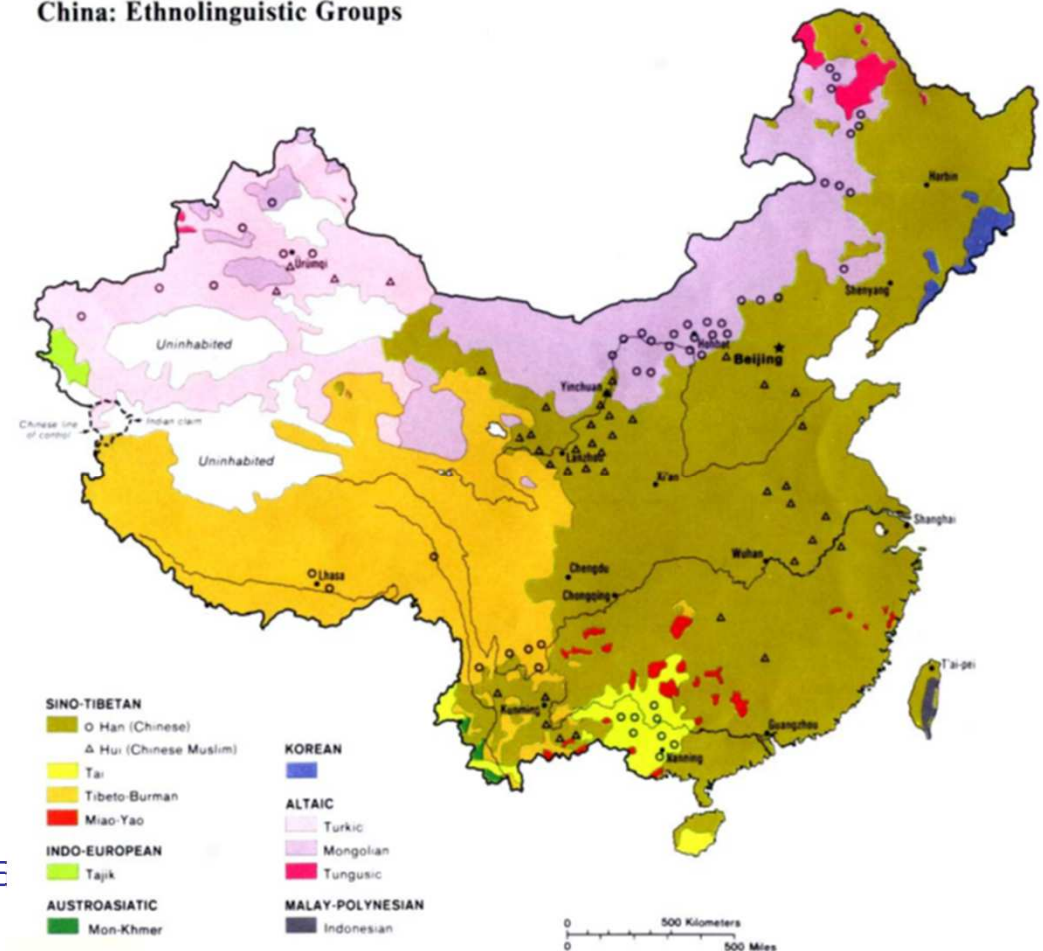
青松光晴氏の日本古代史つれづれブログ より
<https://aomatsu123.blog.fc2.com/blog-entry-177.html>



中国の民族と言語 ①

- 国民の92%を占める漢民族(漢族)と「少数民族」の分けられる。
 - 「少数民族」は56民族が認定され、その言語も尊重されている。
 - その一方で、既に3000の言語が消滅し、今も、300の言語が消滅の危機に瀕していると云う。
- アチャン族(阿昌族) ・ イ族(彝族)
- ウイグル族(維吾爾族) ・ ウズベク族(烏孜別克族)
- エヴェンキ族(鄂温克族、オウंक族)
- オロチョン族(鄂倫春族) ・ 回族(ホウエイ族、フェイ族)
- カザフ族(哈薩克族、ハザク族)
- キルギス族(柯克孜族、クルグズ族) ・ 高山族
- コーラオ族(仡佬族) ・ サラール族(撒拉族)
- ジーヌオ族(基諾族) ・ シェ族(畲族)
- シベ族(錫伯族、シベ族) ・ ジン族(京族、越族、ベトナム族)
- スイ族(水族) ・ タジク族(塔吉克族)
- タタル族(塔塔爾族) ・ タイ族(傣族、ダイ族)
- ダウール族(達斡爾族) ・ チベット族(藏族)
- チャン族(羌族) ・ 朝鮮族 ・ チワン族(壮族)
- チンプオ族(景頗族) ・ トウ族(土族)
- トウチャ族(土家族) ・ トーアン族(徳昂族、旧称パラウン族)
- トーロン族(独龍族) ・ ドンシャン族(東郷族)
- トン族(侗族) ・ ナシ族(納西族) ・ ヌー族(怒族)
- ハニ族(哈尼族) ・ バオアン族(保安族)
- プーラン族(布朗族) ・ プイ族(布依族) ・ プミ族(普米族)
- ペー族(白族) ・ ホジエン族(赫哲族、ホーチョ族)
- マオナン族(毛南族) ・ 満州族(満族) ・ ミャオ族(苗族)
- ムーラオ族(仡佬族) ・ メンパ族(門巴族) ・ モンゴル族(蒙古族)
- ヤオ族(瑶族) ・ ユグル族(裕固族) ・ ラフ族(拉?族)
- リー族(黎族) ・ リス族(傈僳族) ・ ローバ族(珞巴族)
- オロス族(俄羅斯族、ロシア族) ・ ワ族(佤族)

China: Ethnolinguistic Groups



中国の民族と言語 ② 中国語

- 漢語圏とされる言語は、北方の「北京官話」と南方の「南方中国語諸方言」に大別される

- 南方中国語諸方言は6種類の言語

- ①上海語…江蘇省南の一部と浙江省
- ②福建語…台湾、福建省、海南島と広東省の東の一部
- ③広東語…広東省西部、北部の一部を除く江西省
- ④客家語…江西省と広東、福建省の境界地帯、他に福建省外に散在する
- ⑤贛方言…江西省と湖北省の南東部の一部
- ⑥湘方言…北西の一部を除く湖南省

- 北京官話の分布 ←(普通話)

- ①北方官話…東北部すなわち旧満洲と北方(黒龍江、吉林、遼寧、河北)
- ②西北官話…黄土台地とその西方地域(甘肅、寧夏、陝西、河南、湖北、)
- ③西南官話…四川とその近隣地域(四川東部、貴州東部、雲南)
- ④東方官話…南京とその周辺(江蘇、安徽、山東)

- 漢語と言っても、各地域の発音は、全く違い、同一言語ではない。

①北京語(普通話)

②上海語

③広東語

・漢字表記 我是日本人

我是日本人

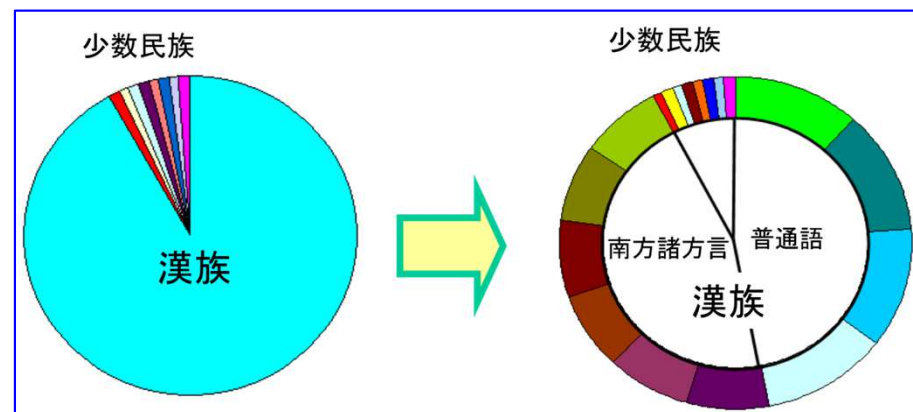
我係日本人

・ローマ字表記 Wo shi Ribenren. Gno zhi Zhakbnnin. Ngoh haih Yahtbunyahn.

- ✓ 漢族と総称しているが、実は漢族などという民族は存在せず、それぞれの言語に対応した民族に分かれていると考えられている。



- ✓ 異民族でも漢族の文化伝統を受け入れれば、漢族とみなされて来た。



中国の民族と言語 ③

- 中国歴代の王朝は、連綿と続いて来たが、その言語は、連綿と続いてきたのか？
 - 答えは、「否」
 - 連綿と続いてきたのは、漢字・漢文。
 - 「夏」の文字は未発見、「殷・商」甲骨・金文文字、周以降続く、秦の時代に中国全土で、文字・度量衡などの統一を図る。夏の時代は不明だが、それ以降、漢字の始まりとなった文字が連綿と使われ、秦の始皇帝の統一運動により、統一の拍車がかかり、漢の時代に完成。それ以降も、外部の民族が中国を征服した後も、漢字・漢文が連綿と使用された。
- 統一を図った各王朝は、中原の民族が全てではない。
 - 従って、言語は、各時代ごとに、違う言語が話されたものと考えるのが妥当。
 - 夏も、殷も中国の中原の出身ではない、東夷人と言われ、話した言語は違ったと見られるが、証拠はない。
 - 書き言葉は、漢字・漢文の原型が、継続して使われて来た。
 - ✓ これが、中華民族が、連綿と続いて来たとの幻想を人に抱かせてきた要因。
- 漢民族
 - 漢朝(前漢・後漢)では最盛期には、人口が6000万人を数えたが、黄巾の乱や三国鼎立の時代など後漢末からの社会的混乱や天候不順のため、中原の戸籍に登録されている者は500万人を切った。
 - 漢朝の漢民族は1/10以下に激減し、僻地に追いやられ、或いは「客家」となり、中原からは失われた。

- 倭人・倭語
 - 歴史上、中国では、多様な(3000以上)言語が存在したが、その大多数は消滅した。
 - 倭語も、その消滅した言語のひとつと見られる。 中国に倭人・倭語が存在した可能性はある。
 - 倭人が中国内で長い歴史をもっていたならば、漢字文化をもっていたはず。
 - 話し言葉は 倭語・日本語 書き言葉は 漢字・漢文 ⇨ これが日本語の本質